社会福祉法人三幸会

平成28年度事業報告書

- (1)法人本部 事業報告
- (2)三幸の園拠点区分 事業報告
 - (A) 特別養護老人ホーム三幸の園
 - (B) 短期入所施設三幸の園
 - (C) 三幸の園デイサービスセンター
 - (D) 三幸の園指定居宅介護支援事業所
 - (E) 三幸の園ホームヘルパーステーション
 - (F) 訪問看護ステーション大平台
 - (G) 地域包括支援センター大平台
- (3) 山崎園拠点区分 事業報告
 - (A) 特別養護老人ホーム山崎園
 - (B) ユニット型特別養護老人ホーム山崎園
 - (C) 短期入所施設山崎園
 - (D) ユニット型短期入所施設山崎園
 - (E) やまざきデイサービスセンター
 - (F) やまざきホームヘルパーステーション
 - (G) グループホームやまざき
 - (H) 山崎園居宅介護支援事業所
 - (I)生活支援ハウス山崎
- (4) 松城拠点区分 事業報告
 - (A) 松城デイサービスセンター
 - (B) 松城指定居宅介護支援事業所
- (5) 救護施設浜松市立入野園 事業報告
- (6) 救護施設浜松市立西山園 事業報告
- (7) 浜松市立軽費老人ホーム佐鳴荘 事業報告
- (8) 仮称神ヶ谷園建設特別会計 事業報告

社会福祉法人三幸会法人本部 平成28年度事業報告

1. 概要

三幸会全体の収支構造のうち介護保険法上の事業所が約 3/4 の割合を占めており、平成 28 年度は介護保険法第 6 期改正 2 年目にあたり、それぞれの事業所において「変革と創造」を推進してまいりました。

競合する他施設・他サービスもある一方、過去最高の実績の事業所もあります。 職員満足度向上、利用者様満足度向上へと相乗効果を生んだ結果と認識しております。

職員満足度向上のために処遇向上、理念研修・心田開墾研修・接遇研修の他各種研修、プロ意識の醸成、「専門力」「職業力」「人間力」3つの力の向上により福祉サービスの価値向上に向け人材育成を図ってまいりました。

その結果、厚生労働省の推奨する若者雇用促進法に基づく認定制度として、静岡 県内では5番目、全国では119番目にユースエール認定をいただくこととなりま した。この認定に驕ることなく一層働きやすい職場へと改善してまいります。



一方、当法人にて昭和56年度より36年間運営をしてまいりました浜松市立軽費 老人ホーム佐鳴荘が誠に遺憾ながら平成28年度末をもって別法人に変更となり、 次年度の法人が順調運営できるよう引き継ぎ移管作業を進めました。

①社会福祉事業

第一種社会福祉事業となります特別養護老人ホーム2施設、軽費老人ホーム1 施設、救護施設2施設を大きな母体とし、その他の併設事業となる第二種社会 福祉事業により、循環あるサービス提供が出来ております。

個々の事業所というミクロの論理的視点で見ますと、収支バランスが悪く独立 採算ができず他事業所からの資金移動で事業継続している事業所もあります。 採算が取れないから撤退閉鎖するのではなく、採算が取れるような変革を行い、 取りにくい部分を総合的に補える力が最も重要なことと考えます。

救護施設では入所施設に加えて、自立支援という在宅サービスが行われるよう になり、自立に向けてのアパートを借りての支援体制の構築ができました。

②公益事業

公益事業としましては3つの居宅介護支援事業所と地域包括支援センター、訪問看護ステーション、生活支援ハウスとなりますが、地域の高齢者が増えると

ともに、地域の要望を考慮に入れて少しずつ増員して増強してまいりました。 中でも地域包括支援センターは求められる要求事項が年々増加しており、しか も複雑化・高難易度化・多職種連携化しており、担当圏域内にて専門職として の高いレベルの役目を全うする期待が更に高まっております。

更に生活支援コーディネート業務を地域包括担当圏域レベルで推進させるべく、一層の地域密着化・予防化を目指すよう年度途中で浜松市と追加契約へとなりました。

また、近年の地域包括ケアから訪問看護ステーションに対する要望も増えており、終末期における在宅支援も積極的に進めてまいりました。

公益事業を通じて、社会福祉法人三幸会の存在価値をより向上するために支えてまいりたいと存じます。

2. 監査の開催

各施設・事業所運営や法人運営を第三者の目で適正に監査をしていただきました。 監査官の皆様の出席を賜り誠にありがとうございました。

①平成28年5月18日(水) 監事による監査

監査官:社会福祉法人三幸会 監事

内容:平成27年度決算監事による監査の実施

②毎月一回14日頃 公認会計士月次監査

監査官:公認会計士事務所

内容:社会福祉法人三幸会各事業所平成28年度月時監査

③平成28年4月29日(金) 公認会計士決算監査

監査官:公認会計士事務所

内容:社会福祉法人三幸会各事業所平成27年度決算監査

④平成28年8月26日(金)・30日(火) 社会福祉施設等の指導監査

監査官: 浜松市健康福祉部福祉総務課指導監査室 内容: 三幸の園・山崎園・入野園・西山園監査

3. 役員会等の開催

決算事務をはじめ、予算/補正予算事務、年度内事業計画および事業報告、法人 内重要案件発生のときを見計らって必要に応じて評議員会ならびに理事会を開 催いたしました。

評議員・理事・監事の皆様の出席を賜り誠にありがとうございました。

また、次年度の社会福祉法改正に伴う組織変更ならびに定款をはじめとする諸規程の追加変更が多くあり、都度議決へと進めてまいりました。

①平成 28 年 5 月 21 日 (土) 評議員会·理事会

内容:平成27年度監査報告・事業報告・決算・財産目録変更登記・ 神ヶ谷園建設進捗報告・理事長専決報告・評議員選任報告・ 理事監事選任報告及び法人発生案件

②平成 28 年 12 月 17 日 (土) 評議員会·理事会

内容: 平成 28 年度第一次補正予算・仮称神ヶ谷園建設進捗報告・入札報告・指導監査実施結果・定款変更案・社会福祉法改正に伴う次年度評議員・理事・監事体制案・諸規程追加変更・理事長専決報告及び法人発生案件

③平成29年3月4日(土) 評議員会・理事会

内容: 理事監事体制変更案・評議員体制変更案・評議員選任解任委員体 制の新設・諸規程の追加変更及び法人発生案件

④平成29年3月4日(土) 評議員選任解任委員会

内容: 社会福祉法改正に伴う評議員体制案

⑤平成29年3月25日(土) 評議員会・理事会

内容: 評議員選任報告・平成 28 年度最終補正予算・平成 29 年度事業計画・予算・施設長選任・施設診療所医療契約・神ヶ谷園建設進捗・ 諸規程の追加変更及び法人発生案件

- ⑥法律改正に伴う諸規程の追加および改定
 - 定款
 - 経理規程
 - 理事会運営規程
 - 評議員会運営規程
 - 評議員選任解任委員会運営規程
 - 役員等報酬規程
 - 役員等出張旅費規程
 - · 就業規則 正規職員
 - ・就業規則 パート職員
 - · 給与規程 正規職員
 - ・給与規程 パート職員
 - 公印管理規程
 - · 人事管理規程
 - 教育管理規程
 - ・被服貸与および被服に関する規程
 - ・育児・介護休業に関する規程
 - ・お歳暮・お中元贈答の指針
 - ・功労者退任時における指針
 - ・前歴換算に関する指針

4. 借入金償還状況

社会福祉法人三幸会の借入金償還状況は以下のとおりです。

今後も適正に償還をしてまいりたく存じます。

①借入先【独立行政法人福祉医療機構】

借入目的	借入金額	契約年月日	返済	f期限
三幸の園建設資金	122, 700, 000 円	平成 11 年 1 月 26 日	平成 31 年	三1月10日
借入残額	返済日	返済額	利息	借入期限
7,660,000 円	平成 29 年 1 月 10 日	6, 130, 000 円	1. 30%	20 年

②借入先【独立行政法人福祉医療機構】

借入目的	借入金額	契約年月日	返済期限			
山崎園建設資金	241,000,000 円	円 平成14年1月21日 平成34年1月				
借入残額	返済日	返済額	利息	借入期限		
60, 250, 000 円	平成 29 年 1 月 10 日	12,050,000 円	1. 60%	20年		

5. 事業部制・プロジェクト制

各施設事業所における変化の乏しい文鎮型スタイルの弊害を減らすために、平成 25 年度より施設間・事業所間を横断、集結できる事業部制での管理、プロジェクト制での管理を加えまいりました。

事業部長・プロジェクト長をはじめとするメンバーが率先して、現状を分析した上で、全体最適の下、同一課題となる部分の標準化・見える化・見せる化・自立化・チーム化・横の繋がり強化・営業力強化・思考力強化・責任感醸成・人材交流を図り、見直すべき部分は改善する権限委譲とマネジメント強化ができました。各事業部・各プロジェクトともに、常に現状把握と改善へと一歩前進することができました。中でも

- ・高齢者施設部門事業部の事故報告と対策強化への取り組み標準化
- ・保護施設部門事業部の新施設創設に向けて2施設標準化
- ・栄養管理向上プロジェクトの食育・ご当地メニューの見える化・見せる化
- ・三幸会まつりプロジェクトの新たな試みの導入

は事業部制・プロジェクト制が目に見える形で顕著に活動できたところです。 平成28年度事業部制・プロジェクト制は以下です。

① 3 事業部

在宅部門事業部 HWD (Homecare Welfare Division) 高齢者施設部門事業部 EWD (Elderly Welfare Division) 保護施設部門事業部 PWD (Protection Welfare Division)

②8プロジェクト

5 S推進プロジェクト SMP (5S Management Project)

栄養管理向上プロジェクト NMP (Nutrition Management Project)

衛生管理向上プロジェクト HMP (Health Management Project)

事務組織向上プロジェクト OMP (Office Management Project)

接遇マナー向上プロジェクト MMP (Manners Management Project)

広報向上プロジェクト IMP (Information Management Project)

腰痛対策予防プロジェクト BMP (Backache Management Project)

三幸会まつりプロジェクト FMP (Festival Management Project)

6. 法人内外 研修会等の積極的展開

各施設内のOJT・OffJT勉強会や各種会議・委員会活動・外部研修出張のほか、法人内職員の福祉サービスの質の向上・人間力向上・思考力の向上・内部コミュニケーションの向上のために、積極的に組織的に人材への先行投資をしてまいりました。

法人としての理念や人間力向上のための共通言語として教育の場を設けました。 以下は一例です。

毎月 バースマンス研修会 心と状況、3つの力と脳開発、おもてなし挨拶

3月 新入職員事前研修会 福祉社会人としての事前準備各職種

5月 ステップアップ研修会 考え方で変わる仕事への取り組み

6月 新入職員研修会 仕事をする意味、目標設定

6月 キャリアアップ研修会 役職者の役割と人事考課

7月 キャリアアップ研修会 コミュニケーション向上プログラム

7月 ステップアップ研修会 生活困窮者支援法背景と社会福祉法人の関り

8月 キャリアアップ研修会 経理管理、リスクマネジメント、広報

8月 静岡県高齢者福祉研究大会 三幸の園デイ生活相談員 山崎園介護員

9月 キャリアアップ研修会 リーダーシップ

9月 ステップアップ研修会 人生いろいろ

10月 キャリアアップ研修会 コーチングの基本

11月 聖隷クリストファー大学出張研修 心が施設を創る、福祉を目指す方へ

11月 キャリアアップ 研修会 介護人間力向上

11月 ステップアップ研修会 これからの介護保険、みんなに伝えたい物語

12月 キャリアアップ研修会 統計数字・同業種・異業種に学ぶ思考変革

12月 ステップアップ研修会 在宅療養と介護について

1月 キャリアアップ研修会 メンタルヘルス不調とセルフケア・ラインケア

1月 ステップアップ研修会 社会人としての心得 わかりやすい文書作成

2月 3年目職員研修会 役割、振り返り、活き活きした組織作り

- 2月 キャリアアップ研修会 ビジョン、5 S、ホスピタリティ
- 3月 キャリアアップ研修会 人の力で選ばれる施設に
- 3月 ステップアップ研修会 選ばれるサービスとなるために必要な視点

7. 情報発信ならびに地域交流

- ①事業計画·事業報告·財務諸表·現況報告書公開
 - ・社会福祉法人三幸会ホームページにて事業計画承認後、3/25 即日一般公開
 - ・社会福祉法人三幸会ホームページにて決算承認後、5/21 即日一般公開
 - ・各施設入口にて決算承認後、5/21 即日施設内閲覧一般公開
 - ・社会福祉法人三幸会ホームページにて現況報告、6/16 即日一般公開
 - ・全国社会福祉法人経営者協議会ホームページにて財務諸表一般公開
 - ・法人便りWith You 平成28年 9月号 Vol. 48にて一般公開
- ②法人便りWith You広報誌発行
 - ·With You 平成28年 5月号 Vol. 47
 - ·With You 平成28年 9月号 Vol. 48
 - ·With You 平成 28 年 11 月号 Vol. 49
 - ·With You 平成29年 1月号 Vol. 50
- ③三幸会ブログ:介護の舞台裏投稿

合計 157 回、2.33 日に1回の法人・施設・事業所情報の発信ができました。

- ・4月 8回、・5月 12回、・6月 15回、・7月 14回、
- · 8月 12回、 · 9月 15回、 · 10月 13回、 · 11月 18回、
- ・12月 17回、・1月 12回、・2月 11回、・3月 10回、
- ④求人活動リクナビ 2017 活用

平成 27 年度後半から平成 28 年度前半にかけて、リクナビ 2017 を一部活用して充実した新卒者・中途者の求人活動を行いました。その結果、平成 29 年度当初より将来の三幸会を支える貴重な新入職員を獲得できました。

⑤平成28年度三幸会まつり開催

平成28年10月17日(土)、ご利用者様、ご家族様、地域の皆様、関連取引企業様、ボランティア様など多数の参加により、盛大に執り行うことができました。ご参加の皆様、協賛企業の皆様に厚く御礼申し上げます。

- (1)法人便りWith You平成28年11月号 Vol. 49 参照
- (2) 三幸会ブログ:介護の舞台裏 2016年10月15,17日投稿 参照
- ⑥地域交流実施
 - (1) 5 施設の納涼祭開催 地元住民・家族へ参加憩の場提供
 - (2) 佐鳴荘施設内敬老会・節分等行事 地元住民の参加憩の場提供
 - (3) 佐鳴湖クリーン作戦、浜名湖クリーン作戦参加

8. 法人課題への進捗

①救護施設の廃止から新規:神ヶ谷園建設計画への進展

平成22年度の入野園・西山園を合体した新規建設計画の提案、平成23年度の 浜松市長への要望書へと進めてまいりました新規建設計画が実現化されよう としております。

平成27年度の両園の廃止から新規施設創設公募にあたり三幸会が採択され、平成28年度・平成29年度建設工事に向け、全力を挙げて取り組んでおります。

②救護施設の自立支援循環への転換

個別支援計画から地域移行を目標とした自立支援訓練から地域移行へと進めております。現実は地域移行まで円滑に進められないケースもありますが、循環施設への転換に向け、積極的に計画実行しております。

9. 公益的取り組み

社会福祉法人における運営から経営への転換、経営主体間のイコールフッティング確立が叫ばれる中、公益的取り組みとして以下を実施いたしました。 各々の社会福祉貢献度の高い低いはございますが、社会福祉事業のみならず、総合的な取り組みが地域社会に向けて社会福祉法人三幸会の存在価値を認識していただくことと考えます。

◆学校関連

- ・浜松市内小学校・中学校の各種行事参加 入学式・卒業式
- ・浜松市内小学校・中学校・高等学校より 福祉体験ボランティア受入
- ・浜松市近隣高等学校・専門学校・大学等機関より 介護ボランティア受入
- ・浜松市近隣高等学校・専門学校・大学等機関より 介護実習受入
- ・浜松市近隣小学校・中学校・高等学校・一般より 娯楽ボランティア受入
- ・浜松市内高等学校より 吹奏楽部定期演奏会等への協賛寄附

◆地域関連

- ・ 浜松商工会議所主催 浜松市津波対策事業基金への 5 年間継続寄附
- ・入野地区自治会 体育祭・敬老会・資源物回収・子ども会との交流
- 入野地区自治会 秋祭寄附·佐鳴湖花火寄附
- ・入野地区連合会大会シニアクラブ参加
- ・大平台地区自治会 体育祭参加・公園の草取り作業参加・防災訓練参加
- ・山崎地区自治会 敬老会参加・防災訓練参加・秋祭寄附
- ・入野地区協働センター主催の福祉フェア参加
- 社会福祉協議会主催の福祉フェア・福祉の日参加
- ・雄踏地区社会福祉協議会役員として参加
- ・西区雄踏地区「ふれあい広場」参加

- ◆法人独自の地域との関わり方
- ・NPO法人静岡県ボランティア協会の会員となり事業活動を支援協賛
- ・ハッピーボランティアの会員となり事業活動を支援協賛
- ・非常災害時のための非常品備蓄5日間分の確保 全施設
- ・環境問題配慮から太陽光発電・電力監視デマンドコントロール管理
- ・短期入所施設予約受入管理システムソフトの構築協力と他法人紹介連携
- ・ 近隣住宅建設時・ 訃報時など施設駐車場無償貸出
- ・えんしゅう介護福祉サービス研究会への参加 職員
- ・静岡県社会福祉協議会への職員派遣 21世紀委員・施設長
- ・ 浜松西ロータリークラブへの参加 理事長
- ・浜名湖クリーン作戦参加 理事長・山崎園
- ・佐鳴湖クリーン作戦参加 理事長・三幸の園・山崎園・佐鳴荘
- ・物品・設備・会議室の無償貸し出しの提供 全施設
- ・ティーサーバー設置による無償飲料の提供 三幸の園・山崎園
- ・大平台小学校低学年児童の下校時旗振りの提供 三幸の園
- ・施設近隣の自主清掃活動 三幸の園・山崎園・入野園・松城
- ◆社会福祉事業・公益事業にコラボ
- ・生活困窮者・低所得者・二次予防者等の積極救済提供
- 家族介護教室の各種企画開催
- ・認知症サポーター養成講座開催
- ・ロコモーショントレーニング講座と普及
- 地域の総合相談窓口として多様な相談に応じる機能
- ・緊急一時避難、短期宿泊事業・短期入所施設・生活支援ハウス・救護施設

◆人材関連

- ・障害者の一部雇用への取り組みと生きがいづくりの場の提供
- ・高齢者:定年退職65歳後の再雇用制度と生きがいづくりの場の提供
- ・シルバー人材センターへ一部業務委託をし、生きがいづくりの場の提供

特別養護老人ホーム三幸の園 平成28年度事業報告

【基本方針】

多職種が協働し、ご利用者様が尊厳を持って安全・安楽に安心した日常生活が送れるよう、ご利用者様本位の生活支援の提供を行います。また、統一したチームケアを提供するため教育体制の確立と介護の質の向上に向けた取り組みを行い顧客満足のサービス提供に努めます。

整理・整頓・清掃・清潔・躾の5Sの意識を高め、ご利用者様が心地良く過ごせる施設内住環境を確立致します。

【生活相談員 重点項目】

① ご家族との良好な関係の維持

常に利用者様の日常生活の様子を把握し、ご家族様の面会時には、こちらからお声掛けし、日頃の様子をお伝えするように努めました。また、体調不良時や状態悪化が見られる利用者様のご家族様には看護師から直接、現在の状態及び今後予想される病変などの説明を行い、ご家族様の意向に沿った対応を心がけました。施設での最期を希望されたご家族様には納得していただけるようその都度状態を報告し、看取らせていただきました。ケアプランに関してはご家族様への説明同意日に、他職種が協働して利用者様の様子をお伝えすると共に、ご家族のご意向を確認していきました。また、利用者様の誕生月にはご家族と一緒に過ごす機会を設けました。都合が合わないご家族様には写真を送り報告をさせて頂きました。新しい取り組みで、改善も必要ですが喜んで頂く事が出来ましたので継続していきます。

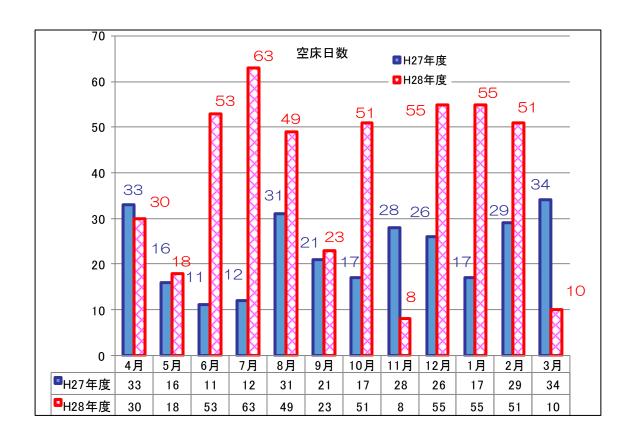
②入所待機者の準備と空床日数の短期間化

入退所 40件(23件) 平均空床日数 4.5日(4日) ()内は27年度 目標としていた、平均空床日数5日以内は達成できましたが、ご家族様や他施 設との都合が合わず、日数が係ってしまう事が多かったと感じます。また、例 年に比べ入退所件数も多く、平均空床日数が増えてしまっています。事前に入 所に関しての説明、協力を要請していましたが、先方の事情で日程の調整が困 難な場合もありましたので、対応に検討の必要があると感じました。また、入 所申込み数も減少している状況から、待機者の確保が困難になっていますが、 引き続き、関連部署とも常日頃から情報共有していきます。

入所前面接 32件(22件) 月平均2.6件(1.8件) ()内は27年度

このうち、入所までに至ったのは22件でした。引き続き、月1件の面接が組めるよう入所判定会で候補者を検討し、入所希望ご家族様や他のサービス事業者との連絡を取りながら進めていきます。

	空床日数	入所人数	退所人数	入退所日数	外泊日数	入院日数	平均介護度
4月	30	4	4	8	1	21	3. 83
5月	18	3	4	17	1	0	3. 77
6月	53	5	6	35	0	18	3. 75
7月	63	4	4	30	0	33	3. 73
8月	49	2	0	12	0	37	3. 71
9月	23	5	5	6	0	17	3. 72
10 月	51	2	4	9	0	42	3. 75
11月	8	3	1	5	0	3	3. 7
12 月	55	4	4	17	0	38	3. 65
1月	55	3	3	8	0	47	3. 68
2月	51	51 2 2 10 3 3		23	0	28	3. 67
3月	10			9	1	0	3. 74
合計	466	40	40	179	3	0	3. 73



② 地域との連携

納涼祭や三幸会まつりの開催にあたり、多数ご来園いただき、楽しい時間を共有することができました。地域の皆様の福祉の拠点としての役割をアピールすることに繋がりました。

また、地域の小中高校生の福祉体験、ボランティアの受入れ等を年間通して実施しました。長年にわたり、ボランティアとして活動されている団体様には「小さな親切運動」実行章を贈呈して頂き、施設としても日頃の感謝をお伝えする事ができました。今後も体制を継続し教育学習の場や人材育成の場として提供する事で、地域福祉に貢献していきます。

受賞団体:たすけあい浜松、音楽クラブ、ひまわり会、海の星高校

受け入れ校:大平台小、入野中、神久呂中、附属中、大平台高校、湖東高校、 新居高校、海の星高校、聖隷クリストファー大学・専門、浜松医療福祉専門学 校

【介護職員 重点実施項目】

① ケアプランの実施と評価

ケアプランの作成、見直しは定期的、かつ計画的にカンファレンスが実施されています。担当職員が中心となり前もって情報提供依頼を行うことにより、他職種間の情報がスムーズに伝達され確実に行えています。また、ケアプラン作成時、ご家族にも各職種より説明を行うことで、より安心して頂け、ご家族の意向も反映することができています。一層 利用者個々に合った満足していただけるサービスを提供するために観察、記録、評価をしっかりと行い、プランを計画していきます。

② 安定したサービスの提供と利用者が楽しめる余暇生活の充実

全体的には安定したサービスを提供することができており、利用者に落ち着いて生活してもらうことができました。また、季節に合わせた壁紙の制作、お楽しみ会や納涼祭等を実施することができました。利用者一人一人の誕生日には担当職員よりお祝いカードを贈り、記念の写真を撮影しています。今年度より月毎の誕生会をご家族様にも参加していただける形で行い、ご家族様と一緒に楽しんでいただける様子がうかがえました。また、月に一度、生け花、書道、ハンドマッサージのクラブ活動を実施しております。当日の事情により実施できない日も数回ありましたが、利用者に張りのある生活をして頂ける様努めました。

③ 職員の教育

より質の高いサービスの提供を行うため、職員の質の向上に努めてまいりました。

毎月の定めた目標に対しての反省アンケートを実施し、職員一人一人が振り返りを行えるようにし、意識の向上に繋がりました。また、来園されるご家族様にもアンケートのご協力をお願いし、職員の利用者や来園者に対しての対応を評価していただきましたところ、大変良い評価を頂くことができました。新人職員に対してはチューター制度を実施し、きめ細やかな教育をしていけるよう配慮しました。職員の知識、技術向上のため外部研修には、可能な範囲でより多くの職員が参加できるよう考慮しました。各階ごとによるミニ勉強会の実施はほぼ毎月実施することができました。今後も介護レベルアップのための勉強会の実施、チームワーク向上をはかり、全体に質の向上ができるような教育体制の充実を図っていきます。

④委員会活動

• 感染症対策委員会

感染症標準予防策の勉強会等を開催し、周知徹底を図りました。

今年度は利用者、職員とも、インフルエンザの発症がありましたが、速やかな 対応ができたと思います。また、ノロウイルスに関しては発症はありませんで した。職員の感染予防意識の向上の結果と言えると思います。

•安全対策身体拘束廃止委員会

施設内事故に関して、対策の検討を行い、事故減少を目指すと同時に、身体拘束 0 を目指しました。誤薬、与薬ミス事故に関して、与薬マニュアルの確認、周知、徹底をその都度行っているのですが、再発が続いた為、さらに二重チェックができる対策を追加し徹底しています。転倒、その他事故に関してはその都度、対策をとっていますが、適切な見守り、環境を置く事で少しでも減ることを目指すと同時に、職員の意識の向上を図り大きな事故を無くしていきたいと考えます。拘束に関しては、現在やむを得ずご家族了承の下、車椅子に転落防止ベルトを使用している利用者が 1 名おりますが、常時ではなく、ご本人が安定した状態で職員が見守りができる状態の時には拘束せず、できる限り拘束時間を少なくするよう努めています。今後の状況を見極め、できる限り 0 を目指していきます。

• 褥瘡排泄委員会

定期的に利用者にあった排泄物品を検討し、皮膚トラブルの軽減とコスト削減 に努めてきました。しかしコスト削減には、委員会だけでなく職員一人一人の 意識も重要になってくるため、今後は職員意識の向上にも力を入れていきます。

④ 5 S の推進

職員の5 Sに対する意識は徐々に向上している様子が見られます。利用者にとっ て快適、且ご家族からも安心していただける環境の提供をを目指し業務内に5 S項目を取り入れる等の工夫を行いました。

【医務室看護師 重点項目】

① 入所者定期健康診断の実施

年1回の健康診断にて胸部レントゲン、心電図検査、血液検査を施行し、疾患の早期発見に努め、医師との連携にて健康管理を行いました。

②感染症の予防

(1)インフルエンザ…入所者、職員に予防接種を実施し、インフルエンザ感染の予防に努めました。入所者 16 名、ショート利用者 2 名、職員 9 名が罹患しましたが、重症者はなく全員快方しました。

次年度も感染予防策の徹底に努めます。

- (2) 肺炎球菌ワクチン…前回接種から5年以上経過している入所者で希望者20名に対し予防接種を実施し、肺炎感染予防に努めました。
- (3) 感染発症時の早急な対応…インフルエンザやノロウイルス等の感染が疑われた場合、速やかに嘱託医へ報告し、簡易検査を施行しました。感染確認後は個室対応や内服管理を行い、流行時には面会を1回フロアに限定し感染の拡大防止に努めました。
- ③健康管理・体調不良時・急変時の対応
- (1)介護職と連携し、入所者の健康状態を把握し、重症化する前に嘱託医の治療を受けられるよう、異常の早期発見に努めました。また、早期治癒の為に必要な内服管理や医療処置を施行しました。
- (2)急変が予測される場合、相談員と連携を図り、家族へ病状の説明を行い、家族の意向を確認しました。嘱託医の判断や家族の希望があれば、総合病院への受診や救急搬送の手続きを行い、病院へは看護師が付き添うようにしました。医師、相談員、介護士、看護師が統一した対応をとれるように情報の共有に努めました。

(3)ショートステイ利用者の健康管理、ロング利用者の急変時に嘱託医と連携し対応しました。また、インフルエンザ等の感染症が疑われた場合、相談員と連携し入所者への感染防止に努めました。

④ ターミナルケア

医師、相談員、介護職の協力のもと、状態が悪化しても病院受診を希望しない場合、園で可能な対応を説明したうえで、看取りの同意を得るように努めました。以降は本人、家族の意向に沿い、出来るだけ穏やかな日々を送れるよう援助しました。面会に来園する家族に対し、細やかな状態説明を行うよう心掛けました。

看取り期に入った入所者の家族に対し、希望があれば食事介助を勧める等、状態を把握してもらうように努め、心の準備をしてもらえるように心掛けました。 受診、入院を希望する家族に退位して、後悔のないように家族の思いを尊重し、 医師と連携し病院を紹介しました。

「看取り」についての外部研修に参加し、「家族の思いに寄り添う看取りケア」 として勉強会を行いました。今後も少しでも家族の揺れる心に寄り添うケアが できるように努めていきたいと思います。

⑤ 褥瘡予防

作業療法士や介護職と連携し、利用者の状態把握に努め、必要時エアマットの導入や、体位変換表の作成をしました。褥瘡予防のための外部研修に参加し、褥瘡委員と連携し、早期発見、早期治癒に努めました。入所者1名、臀部に褥瘡あり、処置継続中。糖尿病あり治癒困難あるも、著しい悪化はない状態です。高齢者の場合、栄養状態が悪い場合、褥瘡の治癒が困難になる為、褥瘡を予防することが重要となります。予防や早期発見の為の介護職との連携が必要となります。

⑥ 機能訓練

利用者一人一人に合った機能訓練プログラムを作成し、負担にならないよう、 また楽しみとなるよう働きかけ、実施するよう努めました。集団体操を行い、 残存機能の維持と向上に努めました。

⑦ ケアプラン

月に2日行われるケアプラン説明時、多職種からの情報提供を行い、利用者の 健康状態をわかりやすく説明するように努めました。

⑧ 介護職員の医療知識の向上

新人介護職員と介護職未経験の中途入職者に対し、研修を 10 時間行い、医療 知識の向上と介護事故の防止に努めました。

⑨ 自己学習

より良い看護サービスの提供のため、1人1回外部研修に参加することができ、 自己研鑽に努めました。今後も積極的に参加し、業務に反映出来るようにして いきます。

⑩ 業務改善

医務会を毎月1回開催し、報告、連絡、相談を行い情報共有に努めました。今後も医務室業務の見直しや改善を行い、働きやすい職場環境を整えるよう努めます。

【栄養士 重点実施項目】

① 適切な栄養ケア・マネジメントの提供

定期的な昼食の食事状況確認や6ヶ月毎の他職種参加のカンファレンスへの参加、毎月の平均摂取量の算出と体重測定を実施し、利用者様の身体と摂食状況の把握を行いました。全利用者様に対する毎月のモニタリング実施や経過記録率を昨年度の14%から50%にしたことで状況変化に早く対応できるようになり、栄養ケア・マネジメントの提供がより適切に行えるようになりました。また、栄養ケア計画書は3ヶ月ごとに作成し、毎月ご家族への説明の場を設けました。その結果、年間で149組のご家族に対し、直接ご意向の確認と同意を得ることができました。

② 利用者状況に合った食事の提供

利用者様の状況や嗜好の把握は、栄養ケア・マネジメントの個々の記録や毎月第3月曜に実施した給食会議、9月12日から9月25日にかけ全サービス利用者様200名を対象に実施した嗜好調査により行いました。その結果をもとに食事内容を見直し、主要210種類のレシピを嚥下調整食導入に向けたものに改良し、利用者状況に合った食事の提供に努めました。しかし、仕上がりの安定までには課題が残っています。レシピや調理手順の見直しをさらに行い仕上がりの安定を図っていきます。

③ 安全で安心な食事の提供

食事調理や厨房内の衛生管理は衛生管理大量調理マニュアルに基づき行い書類を作成し、毎日記録しました。作成した書類は、厨房責任者と施設栄養士にて二重チェックを行い、衛生かつ安全な食事が提供できるよう取り組みました。

④ 緊急災害時の自助体制を整える。

備蓄食品は毎月点検し、期限前に入替え品質管理と備蓄食品の確保を行いました。入替時には実際に食事で提供し、味や調理方法を確認しました。9月1日には厨房職員と他職種参加の炊き出し訓練を実施し、炊き出し工程や盛付の確認を行いました。また、介護職を対象に4月に6回、全職種を対象に8月に1回、非常食に関する勉強会を実施し、緊急災害時に施設職員にて継続して食事が提供できるよう非常食の情報共有を図りました。

短期入所施設三幸の園 平成28年度事業報告

【基本方針】

在宅介護であることを理解し、利用者様が可能な限りその在宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るよう、入浴・排泄・食事等の介護やその他の日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者様の心身の機能の維持だけではなく、利用者様のご家族様の身体的及び精神的負担の軽減を図ります。

【基本計画】

① 短期入所介護計画の作成・提供

介護支援専門員の作成したケアプランを元に、毎月4日以上利用のある定期利 用者へのケアプランの作成(作成・更新で計55件)をしました。

施設介護計画書を元にした、介護職員による毎月のモニタリングについても100%実施され、利用者担当者会議等でご家族や他事業所へ報告する事で、活かす事が出来ました。

② 情報収集と問題の未然防止

- (1)送迎時等での触れ合いで良好な関係を構築・維持し、利用者本人だけでなくご家族にとって話をしやすい環境を整える事が出来ました。
- (2)体調の変化をご利用の無かった期間の話をする事などで確認し、感染症等を施設に持ち込まないよう注意しました。残念ながら利用中にインフルエンザを発症した方もありましたが、感染が拡大してショートステイの営業を中止する事はありませんでした。
- (3) 開催されたサービス担当者会議へは、先方より指定された日に別の方の 会議があった事で参加出来ないものもありました。参加出来なかった会 議におきまして、文面での情報提供を致しました。
- (4) 平成29年4月から処遇改善加算の変更に伴い利用料金の値上げが発生 する事になりましたが、同3月中には文面・口頭にて説明をし、同意を 受ける事が出来、また不明点等の問い合わせについても都度対応を致し ました。

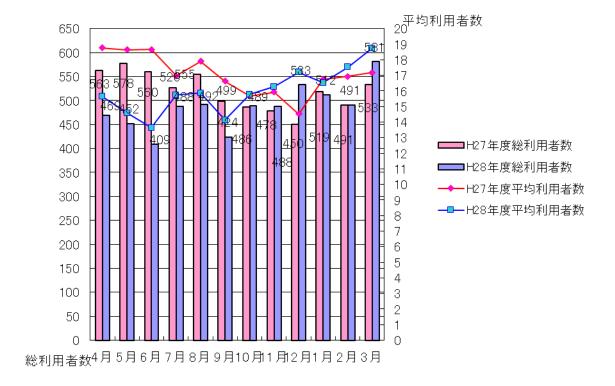
③ 利用者数の継続安定確保

(1) 平成28年度の日中の月平均稼働率は79.85% (15.97人/1日) と年度目標に近い数値でしたが、昨年度の85.2% (17.04人/1日) と比較しまして、かなりの減少となりました。

4月~6月、8月~10月と年度間に2度、定期利用中止の大きな波(ロングを含め計30名が施設入所等により利用中止)があり、新規受け入れ等による回復が中止日数を上回る事が出来なかった事が減少の要因となります。新規の獲得を続けた事、また利用中止の大きな流れが一時止まった事で年度後半になって数値は大分回復する事が出来ました。

(グラフ参照)

[利用者数:昨年度との対比]



- (2) 夜間利用の平均稼働率は65.7%(13.14人/日)と目標内での調整が出来ました。2月以降はロングショートが増えており夜間平均利用者数は限度の15名を超えている為、来年度は調整が必要と考えています。
- (3)特別養護老人ホームとの連携を図りロングショートを常に受け入れする 事で、協働で全体最適を目指す事が出来ました。 定期、またはロングショートご利用からは、17名が特別養護老人ホーム三幸の園へそのまま入所(ショート利用者様の入所は計21名)されており、現在、施設入所待ちのロングショート利用者様は5名確保(ショートご利用での施設入所希望者様は計8名)しています。

三幸の園デイサービスセンター 平成28年度事業報告

【基本方針】

三幸の園デイサービスセンターは、要介護状態となった場合においても、ご利用 者様が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を 営むことができるよう、必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、 利用者の社会的孤立感の解消及び心身の機能の維持並びにご利用者様のご家族 の身体的及び精神的負担の軽減を図ります。

また、ご利用者様が持つ能力を高め、自立支援に努めるとともに、一人ひとりを 尊重した、そのひとらしい生活を支援していきます。

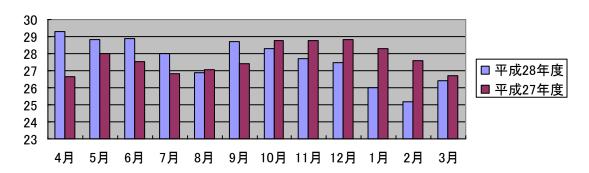
【基本目標と実績】

- ① 一日の利用者数30名以上を目指します。
 - ・新規利用者の獲得を目指し、営業活動を行います。
 - ・既存の利用者の利用日の増加を目指し、より魅力のあるサービスを提供いた します。

今年度は目標である30名以上を超えることはありませんでした。12月頃より風邪やインフルエンザの影響で欠席者が続出するようになり、入院者も増加したことから、利用人数の減少が顕著となりました。

利用者数減少の原因として、1週間に4日以上利用されていた方数名が定期的にショートステイを利用するようになったこと、体調不良で入院後そのまま利用終了となった利用者が増加していることがと考えられます。ひとりひとりの利用者の利用日が多いことで利用者数を保っている状態では、その利用者が何らかの原因で長期に渡って利用できなくなったときの影響が大きくなります。ひとりひとりの利用回数は少なくとも、全体的に利用者の数を増やすといったリスク分散を図っていかなくてはならないと考えています。

月別平均利用人数



- ② 職員の知識とサービスの質の向上を図ります。
 - ・法人内勉強会に積極的に参加するとともに、職員の知識向上とサービスの質 の向上のための取り組みを行います。
 - ・職員間で提供サービスの振り返りを行い、介護方針の統一を図り、サービス に反映させます。

法人内勉強会参加とともに、主任者勉強会や事業所内勉強会を開催し、職員の知識向上とサービスの質の向上に努めました。介護方針の統一を目指し、介護の標準化への取り組みを行い、一定の成果がみられたと思います。その成果を、静岡県高齢者福祉研究大会で発表しました。今後も、サービスや職員の質の向上に努めていきたいと思います。

③ 事故防止

- ・送迎時は、安全第一を念頭に置いた走行および利用者の安全確保に細心の注 意を払い、利用者が快適に乗車できるよう、また事故のないように努めます。
- ・個々の利用者の心理状態および身体状態を把握し、職員間の情報共有を行い、 転倒等の事故がないよう適切な介護を提供します。
- ・年間の介護事故、自動車事故を前年度よりも減少させるよう、職員の事故防止の意識を高め、職員間のチームワークの向上に努めます。

今年度は、送迎における事故は3件、介護事故は3件でした。内訳は、介護事故は血圧高値の利用者の入浴、歩行時の転倒であり、送迎時における事故は、利用者の送迎車降車後の転倒、降車後の車との接触、乗車時のドア開閉の際の手挟みでした。いずれも大事には至りませんでしたが、職員の不注意による事故だったため、ミーティングを開催し、事故の再発防止、事故防止の意識向上に努めました。

前年度の年間の介護事故、自動車事故は5件で、今年度はそれを上回る結果 となってしまいました。来年度以降の課題とし、継続して事故防止の取り組 みを行っていきたいと思います。

三幸の園ホームヘルパーステーション 平成28年度事業報告

【基本方針】

在宅サービス基準指針を基に、利用者の要介護状態に合わせた日常生活の援助を 行い、自立支援を旨としたサービスを提供します。利用者の体調、日常行動、言 語、動作等を注意深く観察し、早期対応と報告を行います。また衛生管理等充分 留意し、慣れ親しんだ地域社会での生活が継続できるよう援助することを基本に、 利他のこころを持ち、懇切丁寧なサービスを提供します。

【基本目標】

① 訪問介護利用者の確保

25 名前後の利用者(月平均利用人数 23.58 人)を確保し、年間訪問実績(H 28/4~H29/3) 2,172 件と前年度と比較して 1.1%上回りました。月平均件数目標 160 件に対して 181 件、日平均人数目標 8.0 人に対して 8.5 人と目標が達成できました。中で、身体、生活混合援助件数が前年度と比較し、1.28%増加の 446 件でしたが、身体介護の件数が前年度と比較して 0.79%下回りました。29 年度はより多くの身体介護の引き受けに努め、安定した事業展開が出来る努力をすると共に、利用者、ご家族、居宅介護支援事業所から安心と信頼を得るよう努めていきたいと思います。

② 定期的なケアプランの見直しと援助

利用者のケアプランは定期的に見直し、自立支援を基本に利用者の日常生活に合わせた援助計画を作成し、利用者の同意を得られるよう努力しました。助住み慣れた地域社会で尊厳を持って継続的な日常生活の維持が出来るよう、また要介護度の軽減、維持を目標に利用者のQOL(生活の質)を向上する援助を行うことが出来ました。

③ 利用者情報の共有・研修会、連絡会の開催

利用者の情報は職員間で共有し、より良い同一サービスの提供が出来るよう連絡会や意見交換会を行う予定でしたが、シフトの調整が出来ず、ミーテイングなどが予定通りに出来ませんでした。個々の訪問後の情報伝達はその都度行うことが出来ました。また、担当介護支援専門員には定期的な利用者情報を報告し、信頼されるサービスを提供しました。

職員は常に利他のこころを持ち、施設内の勉強会や研修会に積極的に参加し自己啓発に努めましたが、外部研修の参加の回数が少なかった為、29 年度は外部件数の参加回数を増やし、さらに自己啓発に努めたいと思います。

④ 感染症の予防・衛生管理

感染症等、職員が媒介者とならないためにサービス提供開始前、サービス提供 終了時は手洗いとうがいを励行しました。また、利用者の衛生管理には充分留 意し、常に清潔を心がけ利用者が安心して生活できる住環境や食品の衛生管理 に努めました。引き続き努めて行きます。

⑤経費節減

訪問地域別に整理し、次の利用者宅間を最短距離で訪問出来るよう見直しを行い、時間的余裕と車両燃費の節減に努めました。引き続き努力していきます。

三幸の園指定居宅介護支援事業所 平成28年度事業報告

【基本方針】

利用者様及び利用者様を取り巻く環境を把握し、利用者様が住み慣れた地域及び ご自宅で、可能な限りその能力に応じた自立した日常生活が送られるように支援 します。また、要介護・要支援状態の軽減または悪化の予防を目的に適切なサー ビスが総合的・効率的に提供されるように努めます。

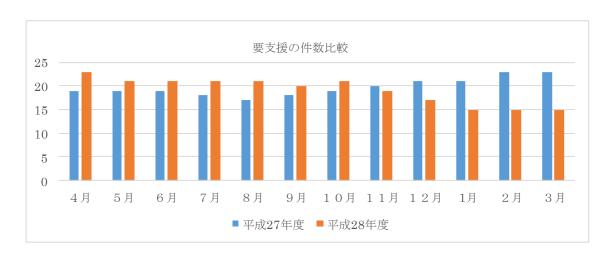
介護支援専門員の技術の向上により事業所評価の向上を目指します。

【基本計画】

① 事業所の安定運営

今年度は、一人あたりの月平均実績件数は 37.06 件でした。平成 27 年度は、 37.75 件でしたので 0.69 件減となりましたが、特定事業所加算Ⅲを算定 (一件・月 300 単位) することで、収入は昨年対比 117.78%で増収しました。 ◎前年度との実績 (請求) 件数は下記の通りです。





② 利用者様支援

月に一度の定期訪問を行い、本人、家族の医師を確認し希望を尊重しながら情報の提供や精神的サポートを行いました。24 時間の連絡可能の体制とし、携帯電話を輪番で持ち回り、緊急対応の相談に応じました。

③ ケアマネジメント技術の向上

下記の通り研修に参加しました。今後も特定事業所として、質の高いケアマネジメントが行えるように、研修会に積極的に参加していきます。

- 6/25 ケアマネ連絡協議会『介護支援専門員研修の変更点~今後求められる役割』
- 6/15~9/28 全 12 日間 主任介護支援専門員研修(山下CM)
- 7/15 篠原地区民生委員さんとの交流会
- 7/21 9/27 11/17 ケアプラン作成研修会
- 7/29 西区合同ケアマネサロン『薬剤師の役割を知り連携を深めよう』
- 8/18 入野地区民生委員さんとの交流会
- 8/25 西区地域演習事業Ⅱ『地域ケア会議の意義と介護支援専門員の役割』
- 9/15 ケアマネ連絡協議会西区支部研修会『歯科医師とケアマネの交流会』
- 10/18 西区合同ケアマネサロン『いいケアマネジャーとは?介護支援専門員の今後を考える』
- 11/5 浜松市医師会 · 浜名医師会主催 浜松市多職種連携推進事業西区研修会
- 1/27 生活支援体制作り勉強会
- 2/20 西区高齢者虐待対応研修会
- 3/15 合同ケアマネサロン『新総合事業利用・提供の流れについて・ケアマネ とサービス事業所との交流会』

④ 地域のネットワークの形成・活用・連携 (チームアプローチ)

独居、高齢者世帯は、民生委員や高齢者相談センターと連携を図り支援しました。医療連携についても、主治医と相談用FAXを活用したり、退院時には病院にてカンファレンスに参加し退院支援をしました。

認知症の理解を深めて頂く為に、7/1、西都台小学校にて、小学4年生を対象 に認知症サポーター講座を開催しました。次年度も継続していきます。

⑤ 併設事業所間による相互協力

月に一度の在宅部門会議、二か月に一度(奇数月)包括大平台と法人内の居宅 事業所とのケアマネ会議に参加し、地域の情報共有や、問題点、改善策、新総 合事業の制度理解を深める為の話し合いをしました。今後も、併設事業所に対 し利用者様や関係機関からの評価や近隣の情報提供を行い、法人全体のレベル アップに努めます。

訪問看護ステーション大平台 平成 28 年度事業報告

【基本方針】

医療ニーズが高い状態で在宅療養に移行する患者様が増加しています。特に医療機器をつけての在宅療養時は訪問看護サービスを利用することで安心して在宅療養ができるようにサポートします。

地域の方が安心して在宅生活が送れるよう、地域包括ケアシステムの構築に参画し、保健医療機関及び福祉サービス事業所と連携を図ります。また、専門的視野で的確な判断・対応を行うとともにご本人・ご家族の要望を取り入れた看護サービスの提供を致します。

【重点項目】

① ご利用者様のニーズに応じた看護の提供

訪問開始時に、ご本人・ご家族にとって何が不安か、何が不足しているかトータル的にアセスメントし、専門的視点から訪問看護計画を立案。そしてご本人・ご家族へ現状の計画について説明し署名をいただいています。その際には看護内容に追加希望がないか意向を確認しました。6か月毎に計画の見直しを行うようにしました。実際に平成28年度に見直しができていたのは、現在の利用者35名中20名であとの15名はできていませんでした。今後は、スタッフと話し合いながら評価、立案が円滑に行えるよう毎月1回のカンファレンスに出していきます。主治医への訪問看護報告に関しては期限に遅れてしまうことがありましたが、毎月確実に報告いたしました。また、病状の変化が著しい時にはご本人・ご家族の了承を得てから、臨時で主治医へ報告し早期対応に努めました。

ご本人やご家族より、予定訪問時間以外に家族や本人より状態の変化があるため訪問依頼や介護相談等を行えるよう 24 時間体制に応じています。ご本人・ご家族の同意を得て緊急時加算を加えています。平成 29 年 3 月時点では 36 名中 21 名の方がおり本年度は約 7 件の臨時の訪問がありました。臨時訪問は病状の悪化にともない、ご家族がどのように対応してよいのか困って訪問依頼・相談の電話がありました。しかし、特に病状が気になる対象者に対しては、事業所から適宜電話連絡を入れ早期に対応方法をアドバイスしていた為、実質的には臨時対応数は増加されると思います。在宅療養を行っていく場合、いつでも気軽に相談できるシステムが不可欠であると考え、今後も継続対応していきます。

訪問の実績は平成 27 年度より平成 28 年度のほうが、利用者合計が 434 名から 382 名と 52 名減っています。利用件数は、2229 件から 2242 件と 13 件増加しています。1 名に対しての訪問回数が多いため利用件数は増えていますが、そういう利用者様が訪問終了となった時は、訪問件数が落ちてしまうため早めに対応していきたいと考えています。

② 医師・ケアマネジャー・多職種との連携

主治医への毎月の報告以外に緊急時や病状報告が必要な時、およびケアマネジャーや他サービス事業所への情報提供に関しては、本人・御家族の同意を得てから行っています。特に病状悪化時など主治医へ臨時の情報提供は診療の役にたっているとご家族を通じて評価をいただきました。主治医も診療中であり、電話やFAX での報告を使い分け診察の妨げにならないよう今後も配慮しながら情報提供を継続していきます。

同じ施設内のサービス事業所については、その都度密接な連携はとれていると思われますが、個人情報管理については煩雑にならないよう今後も注意していきます。

また、入院中の利用者に関しては退院時のカンファレンスに参加することで退院 時共同指導加算が算定できるため、参加できるよう調整しました。

③ スタッフの育成、知識・サービスの質の向上

最新の医療機器をつけ退院してくるご本人・ご家族が安心して在宅療養がうけられるよう、看護師個々の高度な知識・技術が必要であり、外部研修及び法人内勉強会への参加と毎月一回のカンファレンス時に勉強会を実施し自己啓発に努めました。また、法人内在宅部門会議・担当者会議へ毎月参加し、情報を共有し事業所の運営及びサービス向上に取組みました。

④ 御利用者様の体調の変化があり対応していますが、職員も訪問から帰って手洗い・うがい励行できており訪問に支障をきたすことはありませんでした。今後も引き続き体調管理をしていきます。

地域包括支援センター大平台 平成28年度事業報告

【基本方針】

地域の高齢者が住み慣れた地域で安心して過ごすことができるように、包括的かつ継続的な支援を行う地域包括ケアを実現することを目的とします。

また、地域の高齢者から寄せられる様々な期待に応じられるよう、地域包括支援センター相互、行政との緊密な連携による効率的・効果的な事業展開を図ります。

【事業目標】

I 包括的支援事業

1 総合相談支援業務

- ① 住民の利便性を図るために出張相談会を3か所で開催し、9名の相談実績がありました。
- ② 関係機関の会議に参加しネットワークの構築を行いました。
- ③ 困難事例など課題が複数あるケースについてはセンター内でカンファレンスを実施し計画に基づきチームで解決に向けて対応しました。

		実施月•回数														
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		炒△扣炒/+₩		
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月		総合相談件数 1,354 件/年		
	102	151	99	141	111	110	120	110	113	99	100	98		1,354 十/ 十		
		Ş	活 重		容				対	象			頻度・回数など			
								入	、野協	働セン	ノター	2 [2 回開催			
Ļ	出張村	泪談会	÷					篠	原協	働セン	ノター	2 [2 回開催			
								篠	原雇	用促注	進住宅	1	1回開催			
ţ	地区目	民生児	宣委	員協調	義会			入野地区 年11回参加					回参加			
			IJ					篠原	地区			年	11	回参加		
Ī	西区月	民生児	童委	員会县	長会			西区	全域			月	1	回年 12 回参加		
Ī	西区は	あんし	んネ	ットワ	協議	会	西区全域 月1回				回年 12 回参加					
Ī	西区行	亍政・	包括	連絡会	<u></u>			西区高齢者福祉課 隔月4				年6回開催				
7	入野边	車合自	治会	総会				入野	地区			5 ,	月 14 日参加			

2 権利擁護業務

- ① 成年後見制度について、相談者が理解しやすい案内ファイルを作成し、相談対応時に活用しました。
- ② 成年後見制度申し立てのサポートを1件行いました。

					内	容						実施月・回数など		
	1		権利擁護相談件数											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	91 件/年		
月	月 月 月 月 月 月 月 11 2 10 13 8 8 5								月	月	月	高齢者虐待相談件数		
11									4	2	16	67 件/年		
2	5	10	10	6	7	3	2	10	6	6	0			
	À	舌 重	助	勺 茗	\$			対	象					
消費	者被'	害防」	上講詞	舌			各	地区	高齢 き	者サロ	ュン	91 件/年 高齢者虐待相談件数 67 件/年 8 回開催 6 回出席 7 月 1 日開催		
西区	包括	行政师	虐待法	進捗管	管理会	議	西	区長	寿保隆) 演課		6 回出席		
公正 室)	公正証書について(家族介護教 室)								孫原協	働セ	ンタ	7月1日開催		
高齢	者虐	— 待防」	上研作					アマ ^ス ス事		<u></u> ,	サー	2月20日開催		

3 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- ① ケアマネジャーの相談には、課題分析、同行訪問を行いケアマネジャー自らの 気付きが得られるよう支援しました。
- ② ケアマネジャーと民生委員の交流会を2地区で開催し公的制度で対応できない 高齢者の困りごとについて話し合いを行いました。
- ③ 西区包括センター合同でケアマネサロンを3回開催し介護支援専門員のネットワーク作りと資質向上を行いました。また、地域貢献の取り組みとして山崎園新館研修室を利用しました。
- ④ 担当圏域の地域密着型施設 14 事業所において開催される運営推進会議に参加しました。

			実施月・回数など									
				支援 (事例			-	爰件数 段)	女 (上	二段)		介護支援専門員への
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	支援件数 87 件/年 困難事例対応件数
4	16	6	5	4	8	7	1	12	5	5	13	59 件/年
4	0	5	1	2	0	7	3	7	8	5	17	

活動内容	対 象	実 績
ケアマネジャーと民生委員の 交流会	入野篠原地区民生委員・ケアマ ネジャー	各1回ずつ開催
ケアマネサロン	西区ケアマネジャー	3 回開催
地域密着型施設運営推進会議	「グループホーム」 大平台の家・入野めぐみの里 「小規模多機能型居宅介護施設」 3事業所 ねんりんはうす西都台・るぴな すはうす・あいの街大平台 「認知症対応型デイサービス」 2事業所 三幸の園・脳リフレッシュサロ ン	
	「小規模型デイサービス」 6事業所 あいの街佐鳴湖・きらり・入野 倶楽部・篠原ケアホーム・ここ さくら・入野めぐみの里 「小規模特別養護老人ホーム」 こうこうの里	計 10 回出席

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ① 二次予防事業対象者へ積極的にアタックして予防サービスの必要性を説明し、参加を勧めました。
- ② 年度初めにロコトレサロン実施事業施設へ訪問し、個別面談にてモニタリング、 再アセスメントを実施しプランニングを行いました。新規ロコトレサロン事業 所10ヶ所対して立ちあげ支援を行いました。

内 容	
二次予防事業名	新規参加人数
運動器向上トレーニング教室	17名
元気はつらつ教室	17名
口腔機能改善事業	0名

5 在宅医療・介護連携業務

- ① 圏域の開業医を 12 ヵ所にパンフレットを携えて訪問し包括センターの周知と 連携への理解を求めました。
- ② 11 月 5 日に浜名湖ロイヤルホテルを会場に西区包括合同で医師会との共催により多職種連携西区研修会を開催し、司会を務めました。

6 地域ケア会議の開催

① 個別ケース会議を1回開催し、関係機関と地域の課題について話し合いを行いました。

Ⅱ 指定介護予防支援事業

- ① 直営プラン率を昨年実績 34%から 40%に増やし、新総合事業移行時の対象者 把握を行いました。
- ② 公的な機関として公正・中立な業務を行い、自法人のサービスは抱え込みにならないよう50%以下に努めました。複合的な課題のあるケースは自法人に依頼し連携して支援を行いました。
- ③ 委託プランについては主任ケアマネが中心になって、介護支援専門員に対し適切な指導・助言を行いました。

		介護保険給付プラン数												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月		
直営	66	65	70	73	78	83	86	93	93	88	86	87	968	
委託	127	122	123	121	121	115	119	121	120	116	111	115	1431	

特別養護老人ホーム山崎園(従来型)平成28年度事業報告

【基本方針】

利用者様が施設の中で尊厳を保ち、その人らしく健康で安らかに生活が送れるように援助を行い、利用者様には山崎園での生活を満足していただきました。また、地域に開かれた施設であるために、地域交流を積極的に誘致し展開してまいりました。職員一人一人が顧客満足度の向上に努め、サービスの質の向上を常に目指し自己研鑚してきました。

【介護職員重点実施項目】

①ケアプラン

施設ケアマネを中心に多職種が連携し、それぞれの利用者様に合ったケアプラン作成を目指しました。今後も統一した援助が行えるよう、施設ケアマネを中心に定期的なアセスメント・担当者会議・評価を円滑に行えるよう努めます。

②事故対策・身体拘束ゼロ推進

事故対策については、浜松市へ提出した事故報告事案が8件ありました。事故が起こった場合は、その原因・対策・対応・経過観察を迅速に行い、利用者様が安心・安全な生活を送ることが出来ますよう援助させていただきました。身体拘束については、日常生活を送る上で拘束をさせて頂かないと生命の危険が伴う可能性が高い方が3名いらっしゃいました。ご家族様に身体拘束をしなければならない説明を十分に行い、同意を得て実施しました。利用者様の尊厳の保持の為、毎月経過観察を行い、拘束する事を最低限に抑えられるようにしました。身体拘束は心身に与える影響が大きく生活の質低下につながる為、ご家族様や職員と話し合いを重ね、身体拘束解除に取り組み、平成29年2月に身体拘束件数0件となりました。今後も身体拘束ゼロを継続するよう取り組みます。

③感染症対策

今年度はインフルエンザやノロウイルス等感染症発症はありませんでした。来年度も感染対策委員を中心に勉強会を行い、感染予防と発症した場合の蔓延防止に努めます。

④日常生活介護

季節に合った行事を企画・実施し、納涼祭では日赤奉仕団様や近隣の学生等を はじめ、多くのボランティアの皆様、地域の方々の参加・協力により無事成功 させる事が出来ました。また、学生を中心に実習や福祉体験の受け入れ、地域 の方々の慰問を積極的に受け入れました。今年度新たに地元ボランティア様によるアニマルセラピーを導入し定期訪問して頂いております。各ユニットでのレクリエーションでは誕生会等を企画し日々の生活に喜びを見つけていけるよう援助致しました。今後も多職種が連携し創意工夫をして、利用者様の生活の楽しみ、生きがい、認知症予防や残存機能の保持等を考慮して安全で安心な環境のもと、活気のある生活が送れるよう努めます。

⑤食事

管理栄養士と連携し、利用者様の嗜好を調査し、食事を楽しんでいただくよう配慮しました。季節食・行事食を企画し季節感を味わって頂くよう工夫しました。また、利用者様の嚥下状態に応じて複数の形態を用意しました。

【医務室重点項目】

① 健康管理

日常では週に1回嘱託医の先生が往診に来られ、利用者様の健康を管理しています。異常時や急変時には、介護・看護が連携し対応することができました。5月には年1回の健康診断を行い、11月にはインフルエンザ予防接種を受けていただきました。今年度はインシュリンや透析等医療ニーズの高い入所待機者の受け入れ、外部医療機関と調整しながら健康管理に努めました。

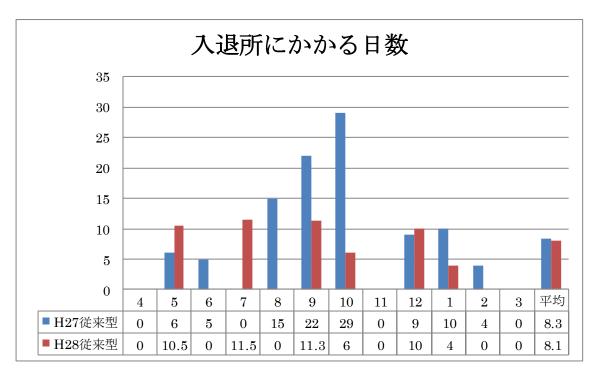
②機能訓練

利用者様の園内での日常生活を充実させるため、機能訓練指導員を中心に複数の機能訓練項目を準備し、その選択に当たっては利用者様の生活意欲が増進されるよう利用者様を援助しました。また心身の状況に応じた機能訓練が適切に提供されるよう個別機能訓練計画の作成及び実施したことにより日常生活を充実させることができました。

【生活相談員重点項目】

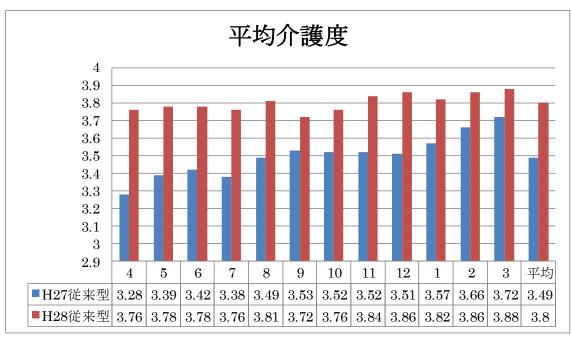
①相談業務

入居中の生活に関して、体調の変化や相談事がある時は連絡調整を行いご家族様と連携を図りました。入居待機者の管理については、毎月1回の判定会議を行い、従来型の次期利用者の確保に努めました。今年度の1人当たりの入退居の手続きにかかる日数平均は、8.1日でした。今後も判定会にて次期利用者を確保し、入退居の手続きにかかる日数を速やかに終えるよう努力します。



②要介護度について

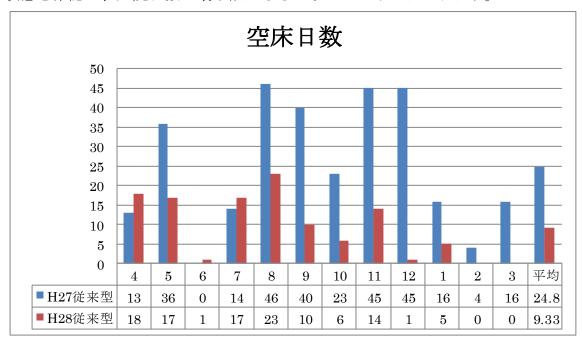
前年度の平均介護度が3.49に対して今年度は従来型の平均介護度3.8でした。平成27年4月に介護保険法が改正され、特養の入所対象者が要介護3以上になったことも要因の一つと考えられます。利用者様の要介護度については、多職種で連携・情報の共有を行い、心身状況をこまめに把握し、ご家族様に速やかに報告します。そして必要に応じて介護度の区分変更を行ってまいります。



② 空床日数について

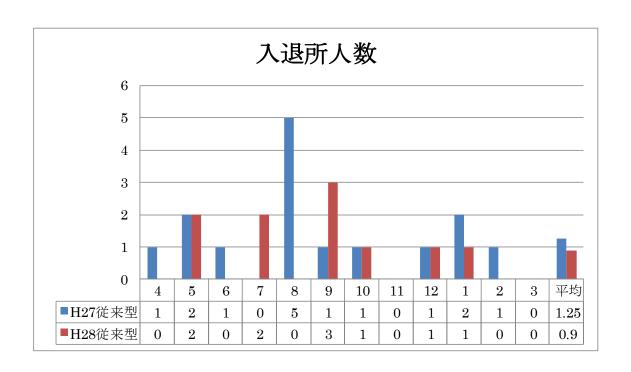
各月の空床日数を25日以内となるように迅速に連絡を取り、スムーズな入退居の事務手続きを図ってまいりました。今年度は25日以上の月が0回、平均空床日数は9.33日でした。

来年度も空床日数が25日以内となるように迅速に連絡をとり、スムーズな入 退居の事務手続きを図るとともに、入院された利用者様がいる時は、こまめに 状態を確認し、入院日数が最小限になるように心がけてまいります。



③ 入退居について

平成28年度入退居者状況は、利用者10名・退居者10名となっております。 待機者につきましては、平成28年3月31日現在で62名(要介護3以上) の方が待機しております。要介護2以下の待機者は従来型・ユニット型合わせ て68名の方が待機しております。入所申込書提出者の方の定期的な状態確 認・入所意思の確認を行い、空床日数が少なくなるように安定した待機者確保 をしてまいります。



【栄養士重点項目】

① 栄養管理・食事内容

利用者様の状態を踏まえ、4月に給与栄養目標量の見直しを行いました。他職種と連携をとり、体調・喫食レベルを考慮し、個人に見合った食事形態・食事量を提供しました。給食会議を月に1回、嗜好調査を9月に行い、その結果を考慮し、利用者様の希望に沿った食事内容の提供に努めました。また、イベント食や行事食を毎月行い、食事が日常生活の彩りや食べる楽しみとなるように努めました。食育として、行事食や栄養に関するポスターを掲示し、食事や栄養に興味を持ち、食事を楽しんでいただけるよう情報提供を行いました。

② 栄養ケアマネジメント

体重を月に1回測定し、栄養状態や食事状態を考慮して栄養スクリーニング・アセスメント・モニタリングを実施し、個人に適した栄養ケア計画を作成しました。低栄養のリスクが高い利用者様には、他職種と連携をとり、食事形態・食事量の見直しなど個々に対応し、低栄養の予防・改善に努めました。

③ 厨房内衛生管理·調理

害虫に対する保守点検を月に1回、害虫駆除を半年に1回実施しました。また、厨房内の衛生点検を毎日実施しました。作業前の厨房職員の健康・衛生チェックを毎日実施することに加え、大量調理衛生管理マニュアルに基づいた衛生管理の徹底を図り、1年を通して食中毒発生の予防に努めました。

④ 防災

保存食の備蓄管理を毎月実施し、9月の防災訓練では炊き出し訓練を行い、 災害時に対応できるよう努めました。

【多職種連携重点項目】

①委員会

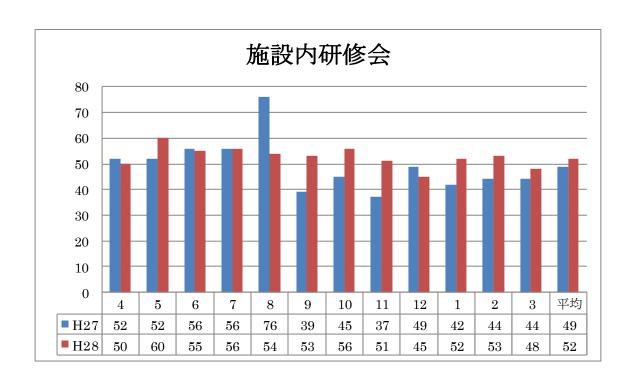
感染・事故対策・身体拘束・褥瘡・人材育成について、各委員会の役割を確立 し毎月1回の委員会の開催、年1回以上の勉強会を開催致しました。委員会に 属している職員だけではなく、全職員に感染・事故対策・身体拘束・褥瘡・人 材育成についての知識が身に付くように周知し、利用者様が快適に生活をおく れるように環境作りを致しました。

②防災·防犯対策

毎月1回の基本訓練、6月には情報伝達訓練、9月には地震を想定した総合防災訓練、11月には火災を想定した消火訓練と避難訓練、1月には夜間想定避難訓練、2月には水害対策訓練を行い、日頃より災害時に職員が果たす役割を確認し、冷静に対応できるよう知識と心構えを学びました。防犯対策については、防犯カメラの設置、刺股などを使った防犯訓練を行いました。

③職員の質の向上

全事業所参加型の施設内研修会を毎月開催とし、職員の質の向上を図ってまいりました。また、施設外の研修にも積極的に参加し、研修を受けてきた職員が外部研修報告会で研修報告を行うことにより、他の職員も共有する事が出来ました。施設内研修会以外にも、自主勉強会として職員参加の研修会をもうけ、質の向上を図りました。しかし、今年度の施設内研修会の参加率は52%と低調でしたので職員の参加率が良くなるよう今後の改善点として検討し、来年度は山崎園全体の参加率60%を目標に努めていきます。また研修会に参加できなかった職員に対してミニ勉強会を開催し、施設内研修会の補完的研修を行い、全職員の質の向上を図るよう計画の見直しします。新入職員については研修期間を設け、基礎知識を身につけた上で業務に就けるよう調整しました。



④ 苦情について平成28年度は苦情がありませんでした。

ユニット型特別養護老人ホーム山崎園平成28年度事業報告

【基本方針】

利用者様が施設の中で尊厳を保ち、その人らしく健康で安らかに生活が送れるように援助を行い、利用者様には山崎園での生活を満足していただきました。また、地域に開かれた施設であるために、地域交流を積極的に誘致し展開してまいりました。職員一人一人が顧客満足度の向上に努め、サービスの質の向上を常に目指し自己研鑚してきました。

【介護職員重点実施項目】

① ケアプラン

施設ケアマネを中心に多職種が連携し、それぞれの利用者様に合ったケアプラン作成を目指しました。今後も統一した援助が行えるよう、施設ケアマネを中心に定期的なアセスメント・担当者会議・評価を円滑に行えるよう努めます。

②事故対策・身体拘束ゼロ推進

事故対策については、浜松市へ提出した事故報告事案が8件ありました。事故が起こった場合は、その原因・対策・対応・経過観察を迅速に行い、利用者様が安心・安全な生活を送ることが出来ますよう援助させていただきました。身体拘束については、日常生活を送る上で拘束をさせて頂かないと生命の危険が伴う可能性が高い方が1名いらっしゃいました。ご家族様に身体拘束をしなければならない説明を十分に行い、同意を得て実施しました。利用者様の尊厳の保持の為、毎月経過観察を行い、拘束する事を最低限に抑えられるようにしました。身体拘束は心身に与える影響が大きく生活の質低下につながる為、ご家族様や職員と話し合いを重ね、身体拘束解除に取り組み、平成28年7月に身体拘束件数0件となりました。今後も身体拘束ゼロを継続するよう取り組みます。

③感染症対策

施設内で感染性胃腸炎を発症した利用者様が1名いらっしゃいましたが、感染対策を行い拡大防止に努めました。来年度も感染対策委員を中心に勉強会を行い、感染予防と発症した場合の蔓延防止に努めます。

④日常生活介護

季節に合った行事を企画・実施し、納涼祭では日赤奉仕団様や近隣の学生等を はじめ、多くのボランティアの皆様、地域の方々の参加・協力により無事成功 させる事が出来ました。また、学生を中心に実習や福祉体験の受け入れ、地域 の方々の慰問を積極的に受け入れました。今年度新たに地元ボランティア様によるアニマルセラピーを導入し定期訪問して頂いております。各ユニットでのレクリエーションでは誕生会等を企画し日々の生活に喜びを見つけていけるよう援助致しました。今後も多職種が連携し創意工夫をして、利用者様の生活の楽しみ、生きがい、認知症予防や残存機能の保持等を考慮して安全で安心な環境のもと活気のある生活が送れるよう努めます。

⑤食事

管理栄養士と連携し、利用者様の嗜好を調査し、食事を楽しんでいただくよう配慮しました。季節食・行事食を企画し季節感を味わって頂くよう工夫しました。また、利用者様の嚥下状態に応じて複数の形態を用意しました。

【医務室重点項目】

①健康管理

日常では週に1回嘱託医の先生が往診に来られ、利用者様の健康を管理しています。異常時や急変時には、介護・看護が連携し対応することができました。5月には年1回の健康診断を行い、11月にはインフルエンザ予防接種を受けていただきました。今年度はインシュリンや透析等医療ニーズの高い入所待機者の受け入れ、外部医療機関と調整しながら健康管理に努めました。

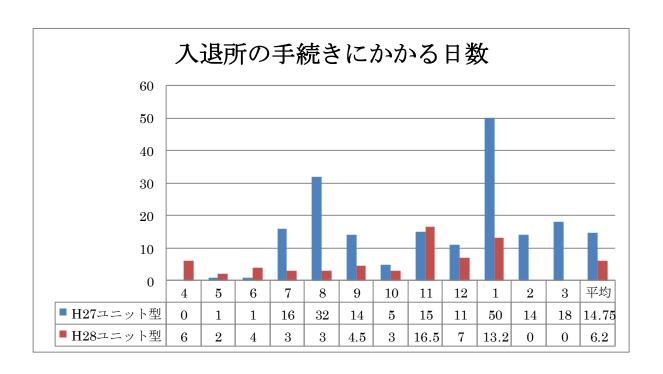
②機能訓練

利用者様の園内での日常生活を充実させるため、機能訓練指導員を中心に複数の機能訓練項目を準備し、その選択に当たっては利用者様の生活意欲が増進されるよう利用者様を援助しました。また心身の状況に応じた機能訓練が適切に提供されるよう個別機能訓練計画の作成及び実施したことにより日常生活を充実させることができました。

【生活相談員重点項目】

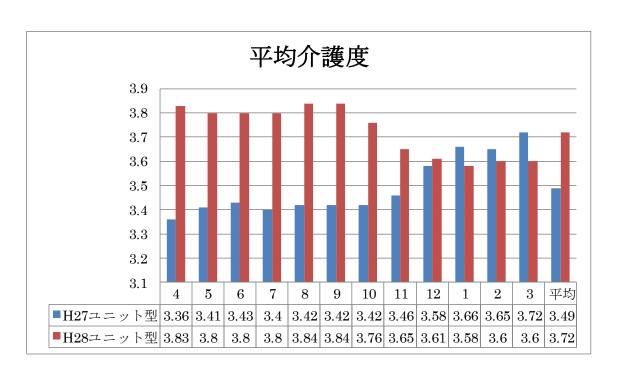
①相談業務

入居中の生活に関して、体調の変化や相談事がある時は連絡調整を行いご家族様と連携を図りました。入居待機者の管理については、毎月1回の判定会議を行い、ユニット型の次期利用者の確保に努めました。今年度の1人当たりの入退居の手続きにかかる日数平均は、6.2日でした。今後も判定会にて次期利用者を確保し、入退居の手続きにかかる日数を速やかに終えるよう努力します。



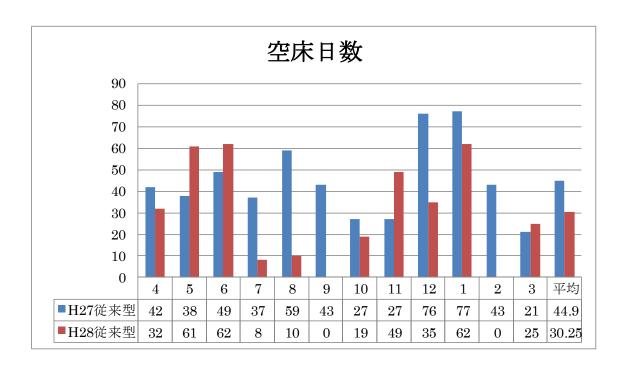
②要介護度について

前年度の平均介護度が3.49に対して今年度はユニット型の平均介護度3.72した。平成27年4月に介護保険法が改正され、特養の入所対象者が要介護3以上になったことも要因の一つと考えられます。利用者様の要介護度については、多職種で連携・情報の共有を行い、心身状況をこまめに把握し、ご家族様に速やかに報告します。そして必要に応じて介護度の区分変更を行ってまいります。



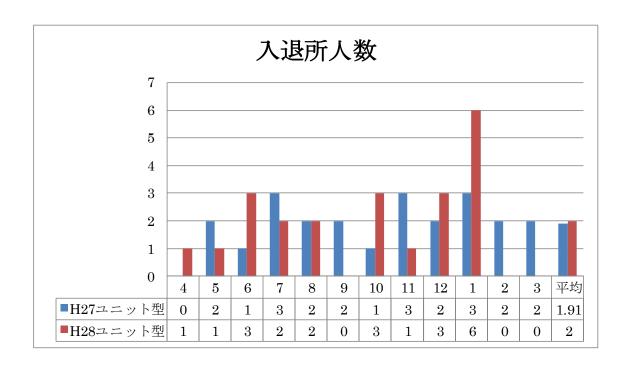
③空床日数について

各月の空床日数を25日以内となるように迅速に連絡を取り、スムーズな入退居の事務手続きを図ってまいりました。今年度は25日以上の月が7回、平均空床日数は30.25日でした。今年度は入院された利用者も多く、空床日数が増えてしまいました。来年度も空床日数が25日以内となるように迅速に連絡をとり、スムーズな入退居の事務手続きを図るとともに、入院された利用者様がいる時は、こまめに状態を確認し、入院日数が最小限になるように心がけてまいります。



④入退居について

平成28年度入退居者状況につきましては、利用者22名・退居者22名となっております。待機者につきましては、平成28年3月31日現在で34名(要介護3以上)の方が待機しております。要介護2以下の方は従来型・ユニット型合わせて68名の方が待機しております。入所申込書提出者の方の定期的な状態確認・入所意思の確認を行って空床日数が少なくなるように安定した待機者確保をしてまいります。



【栄養士重点項目】

① 栄養管理・食事内容

利用者様の状態を踏まえ、4月に給与栄養目標量の見直しを行いました。他職種と連携をとり、体調・喫食レベルを考慮し、個人に見合った食事形態・食事量を提供しました。給食会議を月に1回、嗜好調査を9月に行い、その結果を考慮し、利用者様の希望に沿った食事内容の提供に努めました。また、イベント食や行事食を毎月行い、食事が日常生活の彩りや食べる楽しみとなるように努めました。食育として、行事食や栄養に関するポスターを掲示し、食事や栄養に興味を持ち、食事を楽しんでいただけるよう情報提供を行いました。

② 栄養ケアマネジメント

体重を月に1回測定し、栄養状態や食事状態を考慮して栄養スクリーニング・アセスメント・モニタリングを実施し、個人に適した栄養ケア計画を作成しました。低栄養のリスクが高い利用者様には、他職種と連携をとり、食事形態・食事量の見直しなど個々に対応し、低栄養の予防・改善に努めました。

③ 厨房内衛生管理·調理

害虫に対する保守点検を月に1回、害虫駆除を半年に1回実施しました。また、 厨房内の衛生点検を毎日実施しました。作業前の厨房職員の健康・衛生チェックを毎日実施することに加え、大量調理衛生管理マニュアルに基づいた衛生管理の徹底を図り、1年を通して食中毒発生の予防に努めました。

④ 防災

保存食の備蓄管理を月に1回、9月の防災訓練では炊き出し訓練を行い、災害時に対応できるよう努めました。

【多職種連携重点項目】

①委員会

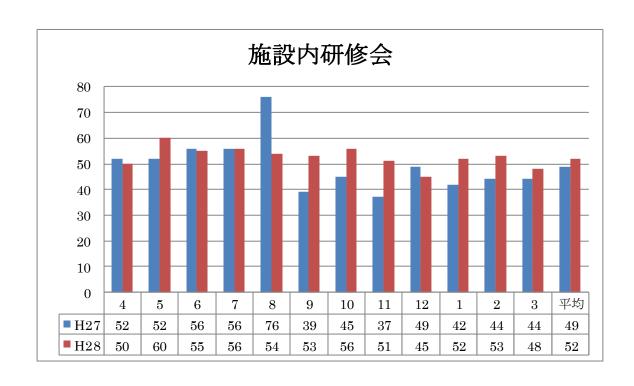
感染・事故対策・身体拘束・褥瘡・人材育成について、各委員会の役割を確立 し毎月1回の委員会の開催、年数回の勉強会を開催致しました。委員会に属し ている職員だけではなく、全職員に感染・事故対策・身体拘束・褥瘡・人材育 成についての知識が身に付くように周知し、利用者様が快適に生活をおくれる ように環境作りを致しました。

②防災·防犯対策

毎月1回の基本訓練、6月には情報伝達訓練、9月には地震を想定した総合防災訓練、11月には火災を想定した消火訓練と避難訓練、1月には夜間想定避難訓練、2月には水害対策訓練を行い、日頃より災害時に職員が果たす役割を確認し、冷静に対応できるよう知識と心構えを学びました。防犯対策については、防犯カメラの設置、刺股などを使った防犯訓練を行いました。

③職員の質の向上

全事業所参加型の施設内研修会を毎月開催とし、職員の質の向上を図ってまいりました。また、施設外の研修にも積極的に参加し、研修を受けてきた職員が外部研修報告会で研修報告を行うことにより、他の職員も共有する事が出来ました。施設内研修会以外にも、自主勉強会として職員参加の研修会をもうけ、質の向上を図りました。しかし、今年度の施設内研修会の参加率は52%と低調でしたので職員の参加率が良くなるよう今後の改善点として検討し、来年度は山崎園全体の参加率60%を目標に努めていきます。また研修会に参加できなかった職員に対してミニ勉強会を開催し、施設内研修会の補完的研修を行い、全職員の質の向上を図るよう計画の見直しします。新入職員については研修期間を設け、基礎知識を身につけた上で業務に就けるよう調整しました。



④苦情について

平成28年度は苦情がありませんでした。

短期入所施設山崎園(従来型) 平成28年度事業報告

【基本方針】

利用者様一人ひとりを理解・尊重し、在宅生活とショートステイ利用後の生活が連続したものとなるようショートステイ利用中は残存機能を配慮しながら、入浴や排泄、食事等の介護やその他の日常生活上のお世話を行う事を基本としました。

【重点項目】

生活援助

サービス提供内容や利用時の様子、食事量や排便の記録を毎日利用状況表にまとめ、イベント等に参加された場合はその様子を写真に撮り、ご家族へ報告しました。ADL等に変化が見られた場合、ご家族や担当介護支援専門員に報告・相談、必要に応じて他事業所のとの話し合いの場を設けて頂き、今後の対応について話し合いをしました。

② 栄養管理

例年の季節が感じられるものに加え、自分で選択できる選択メニューの内容も 昨年より多く新たに取り入れ、好評でした。介護職員と情報交換を密に行い、 利用者様のADLの変化に合わせ適した食事の提供に切り替えるよう努めま した。

③保健衛生

利用者様の体調変化に十分注意し、来園時に血圧測定をはじめとする全身チェックを行いました。また体調不良時にはご家族様や担当介護支援専門員、場合によっては主治医に連絡し対応方法を確認・ご指示を頂き、スムーズに対応することが出来ました。

④教養娯楽

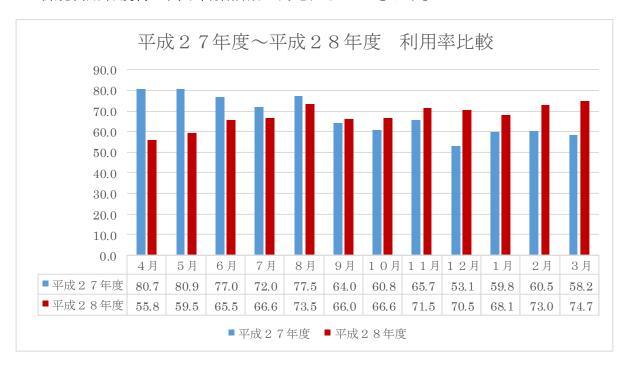
新聞・テレビ等の設置、計算問題や色塗り、パズルやクイズなど個人で行う物 や体操やゲームなど集団で行う物を計画し、その方に適したサービスを提供し ました。また、クリスマスや正月など季節を感じられるイベント時にはユニッ ト内の装飾を行いました。食事前には、口腔体操、食事中にはテレビを消して 音楽を流すなど食事をおいしく安全に食べられるような環境作り等も行いま した。

⑤防災保安対策

特別養護老人ホームと連携し、毎月1回の防災訓練と勉強会での防災教育を実施し、全ての職員が災害や火災発生時の対応できるよう訓練しました。

⑥利用率向上

年間平均利用率は67.6%となり、当初の目標設定80%を上回ることが出来ませんでした。前年度末にロングショート及び定期利用者が入所等で利用終了となってしまった方が多く、その空室を埋める事ができなかった為、4月は利用率の低下に繋がったと考えられます。5月以降は多少の利用終了者はありましたが、新規利用者の獲得で定期利用・ロング利用へ移行される方が多く、利用率が上がっていったと考えられます。山崎園のショートステイは定期利用・ロング利用の方が多い為、利用終了になると利用率に影響が出てくるため、新規利用者獲得に向け営業活動に力を入れていきます。



⑦苦情について

平成28年度は苦情がありませんでした。

ユニット型短期入所施設山崎園 平成28年度事業報告

【基本方針】

利用者様一人ひとりを理解・尊重し、在宅生活とショートステイ利用後の生活が 連続したものとなるようショートステイ利用中は残存機能を配慮しながら、入浴 や排泄、食事等の介護やその他の日常生活上のお世話を行う事を基本としました。

【重点項目】

生活援助

サービス提供内容や利用時の様子、食事量や排便の記録を毎日利用状況表にま とめ、イベント等に参加された場合はその様子を写真に撮り、ご家族へ報告し ました。水分摂取量や血圧の変化など個別に記録の依頼があった場合には、個 人専用の利用状況表を作成し対応しました。

ADL等に変化が見られた場合、ご家族や担当介護支援専門員に報告・相談、必要に応じて他事業所のとの話し合いの場を設けて頂き、今後の対応について話し合いをしました。

② 栄養管理

例年の季節が感じられるものに加え、自分で選択できる選択メニューの内容も 昨年より多く新たに取り入れ、好評でした。介護職員と情報交換を密に行い、 利用者様のADLの変化に合わせ適した食事の提供に切り替えるよう努めま した。

③保健衛生

利用者様の体調変化に十分注意し、来園時に血圧測定をはじめとする全身チェックを行いました。また体調不良時にはご家族様や担当介護支援専門員、場合によっては主治医に連絡し対応方法を確認・ご指示を頂き、スムーズに対応することが出来ました。

④教養娯楽

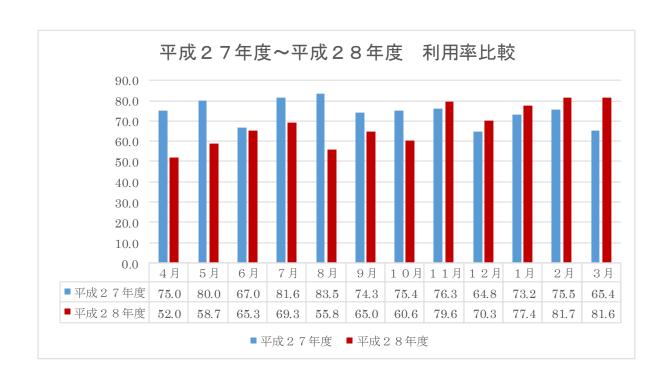
新聞・テレビ等の設置、計算問題や色塗り、パズルやクイズなど個人で行う物や体操・ゲームなど集団で行う物を計画し、その方に適したサービスを提供しました。また、クリスマスや正月など季節を感じられるよう、イベント時にはユニット内の装飾を行いました。行事やイベントに参加された際は、職員が参加の様子を写真に収め、退所時にお渡ししました。大変好評だった為今後も継続していきます。利用者様一人につき5~10分程度、個別の園内散歩を行い筋力低下予防に努め、気分転換を図りました。

⑤防災保安対策

特別養護老人ホームと連携し、毎月1回の防災訓練と勉強会での防災教育を実施し、全ての職員が災害や火災発生時の対応できるよう訓練しました。また、 昨年に引き続き、夜間想定防災訓練も行いました。

⑥利用率向上

年間平均利用率は68.3%となり、当初の目標設定80%を上回ることが出来ませんでした。また、昨年度の年間平均利用率74.3%よりも下回ってしまいました。前年度末にロングショート及び定期利用者が入所等で利用終了となってしまった方が多く、その空室を埋める事ができなかった為、4月は利用率の低下に繋がったと考えられます。5月以降は新規利用者の獲得もでき、徐々に利用率が上がってきました。しかし、再度7月末に利用終了者が増えてしまった為、8月の利用率低下となってしまいました。その後多少の利用終了者はありましたが、新規利用者の獲得で定期利用・ロング利用へ移行される方が多く、利用率が上がっていったと考えられます。山崎園のショートステイは定期利用・ロングの方が多い為、利用終了になると利用率に影響が出てくるため、新規利用者獲得に営業に力を入れていきます。



⑦苦情について

平成28年度は苦情がありませんでした。

やまざきデイサービスセンター 平成28年度事業報告

【基本方針】

利用者様が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにと基本方針として掲げました。必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行い、その人らしい生活が送れるようその方の社会的孤立感の解消及び心身機能の維持並びに利用者様の家族の身体的負担軽減を図るように努めました。

【重点実施項目】

- ①サービス内容
- (1)生活支援

きめ細やかなサービス提供につなげるようにケアプランをもとに、個々のニーズに合わせた通所介護計画(介護予防通所介護計画)、選択的サービスの実施、計画を作成・評価を行い、利用者様・ご家族様へ確実に計画書の説明を行い、サービスへの理解を深めていただけるように努めました。介護職員はモニタリングを行い、常に利用者様の変化を敏感に感じ取れるような感覚を養いました。またサービス提供を円滑に行う為、関係機関との連絡調整も密に行ないました。

(2)食事

利用者様にあった食事形態、栄養バランスの良い物を提供することで満足して頂ける食事になる様に努めました。また、食事前には口腔体操を行い、利用者様が安全に美味しく食事を召し上がっていただけるよう努めました。

(3)健康管理

ご家族・主治医・ケアマネージャー等の関係者と連携を強め、常に利用者様の健康状態の把握をして、健康維持の為の機能訓練体操の内容は充実しました。医療ニーズの高い利用者様に関しても、可能な限り受け入れをしていきました。

(4) レクリエーション活動

レクリエーション活動は、個々の能力に合わせたもの、興味あるものを提供できるよう努めました。製作は、各能力に応じた準備を行い、利用者様の充実感、達成感を促すよう努めました。週2回の書道教室を導入しました。(グループホーム、他事業所の参加もあり充実した時間の共有を促しました。)また、慰問等は平均して月に2回受け入れ、外との交流の場を設けることで刺激ある生活を送っていただけるように努めました。好天候日には中庭を利用し、カラオケ、散歩等、四季を満喫できる機会の提供に努めました。

(5)機能訓練

計画書にそって、集団体操、個別訓練(歩行訓練・立位訓練・セラバンド運動・リズム運動)を楽しく行って頂けるよう各職員が工夫を凝らし、利用者様の健康維持や筋力向上を目指すと共に、出来る限り在宅にて自立した生活を送れるよう努めました。

(6) 口腔ケア

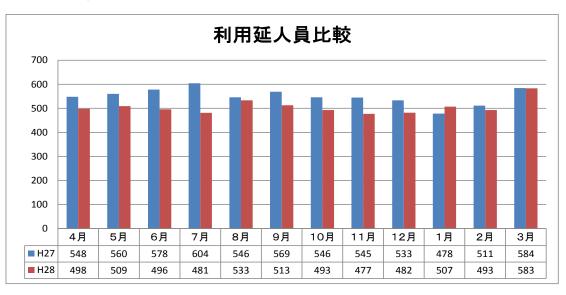
口腔機能維持のため、昼食後の歯磨き・うがいの徹底を継続しています。自 宅より持参した歯ブラシとコップで歯磨きすることにより、口腔ケアの習慣 化を継続しています。

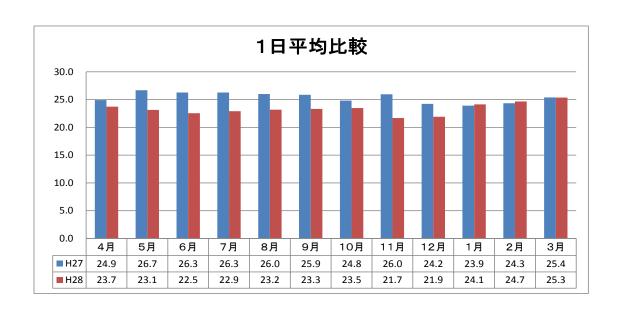
②防災対策

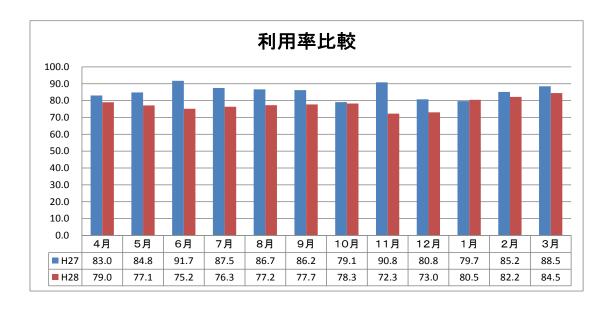
消防計画に基づき月1回の避難訓練を実施し、利用者様にも積極的に参加していただき緊急時に落ち着いた行動がとれるよう繰り返し訓練を行いました。

③利用率の向上にむけて

利用率を維持するために、浜松市西区にある居宅介護支援事業所や地域包括支援センターに情報の送付を中心に行い、訪問を行いました。利用終了の方、ご家族の介護負担が増大となった方のショートステイ利用、長期入院の方々が利用率に影響し、中々新規獲得が追い付けず、厳しい状況が続きました。このような時期にこそ種を蒔く好チャンスととらえ、現利用中の方々により楽しく充実した時間を提供出来る様、中庭を利用したレクリェーションを実施しました。サービスの内容を毎月見直して、利用者様が飽きのこない明るい雰囲気つくりを心掛けました。これからも利用回数の増加を目指し、利用者様にとって居心地の良い場所の提供、気配り心配りをして温かい雰囲気でサービス提供を行っていきます。







④苦情について

平成28年度は苦情がありませんでした。

やまざきホームヘルパーステーション平成28年度事業報告

【重点実施項目】

①訪問介護計画

訪問介護は利用者様の基本的人権を尊重し、一人ひとりの残存能力を生かし、 自立支援を基本とした訪問介護計画を作成して、ご本人やご家族、そして介護 支援専門員といった関係者とよく協議し、安心して落ち着いた生活を送ってい ただけるような訪問介護計画を作成して実施しました。

②利用者状況

平成 28 年度の利用件数は 2,662 件で前年度より 1%の増となりました。詳細は、身体介護が 971 件で 5%の減、身体生活複合 1,092 件で 7%の減、生活援助 129 件で 32%の減、予防支援 470 件で 90%の増となりました。毎日の報告や記録をもとにケアプランの見直しや、利用者様の体調変化を細かく観察し早目の対処に心掛けてまいりました。提供内容としては、28 年度 3 月末では、利用者 21 名あり、その内 8 名が要支援の利用者で昨年度より 3 名増加しています。その分、要介護が減少しています。介護の重い利用者は在宅生活を継続していく為には、週 4~5 日と一人あたりの利用回数が多く、受け入れ人数が限られました。サービス提供では、利用者の立場を思いやり、細やかな気配りができるよう努めました。

③介護の質の向上

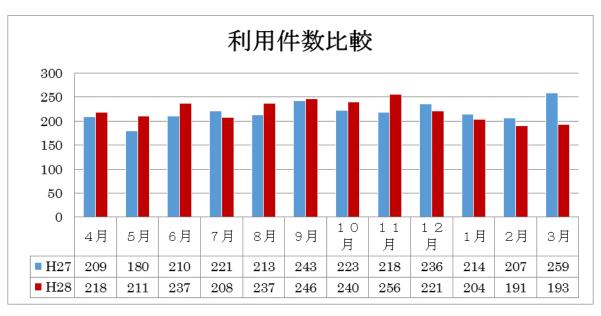
ヘルパーに対して利用者様の要求が年々高くなってきており、今以上の職員の質の向上に努め、利用者様・家族・関係機関からも信頼が得られるよう研修会の参加、勉強会への出席を多数し絶えず介護の質の向上を目指してきました。

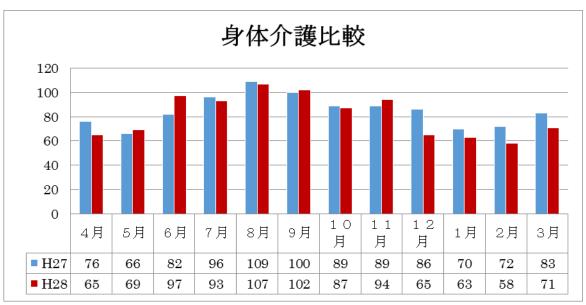
4)健康管理

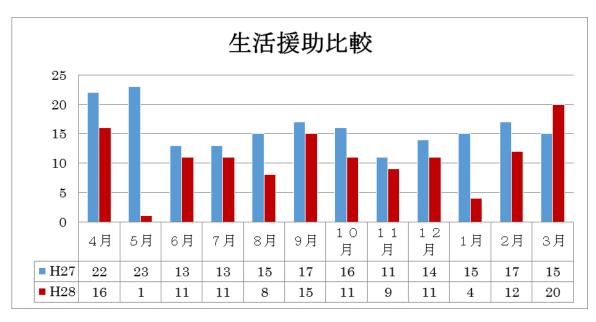
職員の健康管理を第一として、インフルエンザ・ノロウイルス等の感染症予防 勉強会の実施やうがいや手洗い等の徹底を図りました。

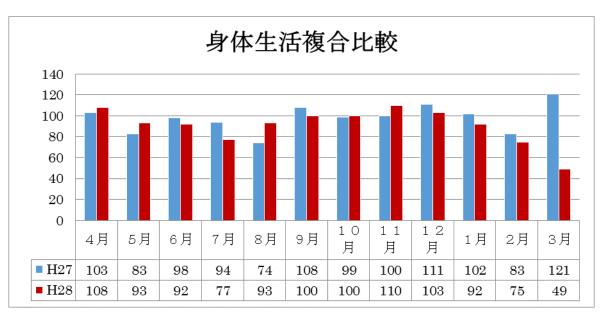
⑤利用率の向上

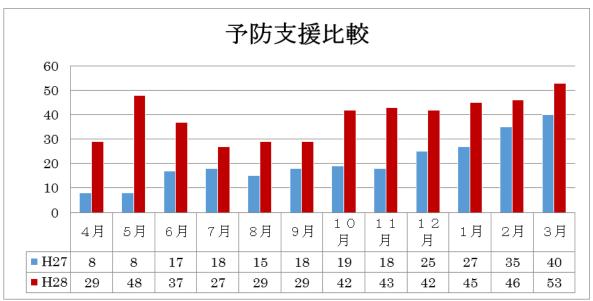
サービス内容を検討して利用回数を増やすなど利用者様の生活環境の向上を 図るため、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターを廻り、生活改善をす るにはどうしたら良いのか会議と併せて営業活動も行ってまいりました。今後 も引き続き事業実績が上がるよう努め、サービスの拡大を行ってまいります。

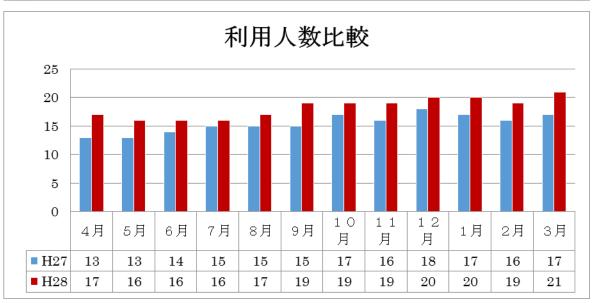












グループホームやまざき 平成28年度事業報告

(認知症対応型共同生活介護・認知症対応型通所介護)

【基本方針】

家庭的な雰囲気の中、入浴・排泄・食事等の日常生活を提供し認知症が進行しないよう、また利用者が安心して過ごせる環境を提供するよう取り組みました。

- ①利用者やご家族が認知症ケアなどの必要な知識を学ぶ機会を設ける
- ②利用者に寄り添い安心して過ごせるよう支援する
- ③利用者の活動やレクレーションの充実を図り機能低下を防ぐ

【重点実施項目】

①利用者へのサービス

計画作成担当者が他の職員と協力しながら、利用者一人一人にあったサービス計画書を作成しサービスの提供に努めました。

②日常生活上の支援

利用者一人一人の生活のリズムを大切に、個々の能力を活かした支援を心掛けてきました。入浴については、身体の清潔を保ち、心の安らぎをもたらすよう心掛け菖蒲湯など季節感を維持し、ピュアオゾン発生装置によるバブルバスでゆったり入浴できるよう支援しました。排泄については、利用者の尊厳を尊重し、援助を受ける側の気持ちに配慮した支援をしました。また、できるだけ早く利用者の排泄パターンをつかみ、トイレ誘導等適切な介助に努めております。食事は利用者と共に準備や調理・盛り付けなどを行い、食器は個々の思い出のある物を使用し家庭での食事の雰囲気を出せるよう心掛けてきました。

③機能訓練

グループホーム内では心身の回復をはかる「生活リハビリ」を中心として、日々の生活における掃除、洗濯、食事準備などを通じて行ってきました。また、リハビリ体操や園内散歩、季節の温暖な時は園外の散歩を行い筋力の維持向上に努めてきました。

④相談、援助

利用者が日常生活で困っていることはないか、人間関係が孤立していないか楽しく生活できているかなど注意して見守り、必要に応じて相談・援助を行いました。

⑤保健衛生

体調を保持して、清潔な環境で生活を送っていただけるよう努めました。健康 管理には十分注意し、利用者が急変のときには、主治医又は協力医療機関にお いて必要な治療等が受けられるよう努めています。

⑥防災保安対策

避難訓練・消火訓練等、地震に対応した防災訓練・防災知識の習得等、災害から身を守ることを中心に訓練を実施しました。また、地区での防災訓練にも参加し地域交流も図りました。

(7)家族・地域社会との交流

ご家族に利用者の日々の生活を知ってもらえるよう毎月写真入りのグループホーム便りを送りました。ご家族にも施設内の様子を理解していただけるよう、家族会を実施しました。また、利用者を施設内の生活にとどめず区民祭や、敬老会などの地域行事に参加し、お楽しみ外出・外食等を定期的に計画して社会との交流に努めました。誕生月には担当職員と出掛け楽しんでもらいました。

⑧職員の資質向上

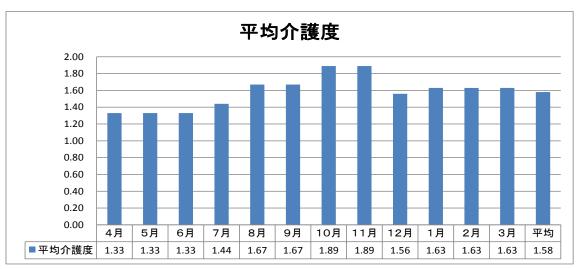
サービスの向上を図るため職場内研修を実施しました。専門性の高い研修については、外部機関が実施する研修に参加しました。

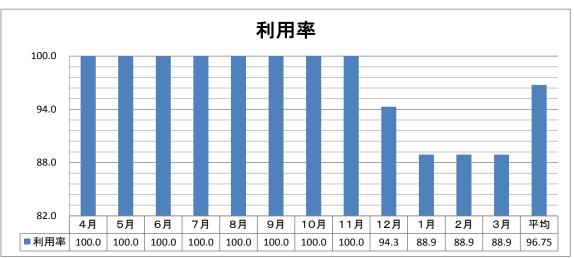
⑨運営推進会議の設置・運営

地域密着型サービス事業所では、より地域に開かれた事業運営及びサービスの質の向上の確保を図るため、浜松市職員と地域包括支援センター職員、地域住民代表の方、ご家族代表の方、利用者代表の方に運営推進委員として参画をお願いし、定例会議を2ヶ月に1回(年6回)開催し、活動状況を報告・評価を受けるとともに施設への必要な要望・助言等を聞く機会を設け貴重なアドバイスをいただきました。

⑩外部評価

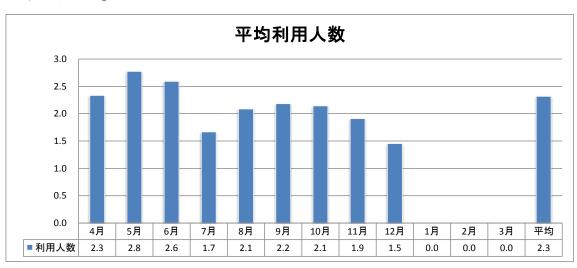
地域密着型サービス外部評価実施回数緩和の適用を受け、静岡県から認められましたので平成28年度は外部評価を行いませんでした。適正に認知症対応型共同生活介護と認知症対応型通所介護事業を実施しましたので、平成28年度は免除されたことになります。平成29年度は外部評価を受けることになります。





印認知症対応型通所介護 (定員3名)

グループホームの建物を利用し、グループホームで生活する方々と在宅生活の 方のデイサービスを実施し、ともに同じ活動をすることによりお互いに交流を して楽しい生活を送るようにしています。昨年末大変な事件がおこり1月から デイを休止することになり利用して下さっていた方々には大変なご迷惑をお かけしました。



山崎園居宅介護支援事業所 平成28年度事業報告

【基本方針】

利用者様が住み慣れた地域や自宅で安心して日常生活を継続することができるように要介護状態の軽減又は悪化防止・予防を目的に適切なサービスが総合的・効率的に提供され、利用者様の生活の質が向上し自立生活が送れるよう支援していきます。

【利用者へのサービス】

- ① ケアマネジメント技術の更なる向上 制度改正への迅速な対応 事業所内で研修内容を共有し、給付管理件数の増加に伴うケアマネジメントの 質の低下防止や事業所内のケアマネジメント技術の向上を図るため、平成 28 年度は月1回の法人内研修会、2か月に1回の法人内居宅介護支援事業所と地 域包括支援センターとの情報交換の他に外部研修に合計13回参加しました。
 - 6/11 サービス事業所連絡協議会「地域包括ケアシステム構築と総合事業」
 - 6/25 介護支援専門員連絡協議会「介護支援専門員研修の変更点」
 - 7/21 地域演習事業 I 「課題整理総括表の活用」
 - 7/15 篠原地区民生委員と介護支援専門員との交流
 - 7/29 西区合同ケアマネサロン「薬剤師の役割を知り連携を深めよう」
 - 8/18 入野地区民生委員と介護支援専門員との交流会
 - 8/25 地域演習事業Ⅱ「地域ケア会議の意義と介護支援専門員の役割」
 - 9/15 歯科医師とケアマネージャーの交流会
 - 9/27・11/17 西区ケアプラン作成研修会
 - 10/18 西区合同ケアマネサロン「いいケアマネージャーとは?」
 - 11/5 他職種連携推進事業 西区研修会
 - 11/12 マストレメディカル研修会「介護保険法改正審議の行方と事前対策」
 - 2/20 西区合同 高齢者虐待研修会
 - 3/15 西区合同ケアマネサロン「新総合事業提供の流れと留意点」
- ② 医療連携 医療ニーズへの対応の更なる強化

利用者様の入院時の情報連携や退院支援に積極的に努めました。また、電信や受診同行により、医師との情報共有に取り組みました。

今年度は入院時情報連携加算を24件、退院退所加算を5件算定しています。

③ サービスの質の確認 公正中立の確保

サービス提供事業所の個別計画や評価を確認、毎月のモニタリング訪問を通じて、サービスの質の確保が出来ていることを確認しました。また、特定事業所集中減算の該当もなく、利用者様の状態やニーズに合わせた公正中立なサービス事業所の紹介を行いました。

【事業所の運営】

① 事業所のケアプラン作成依頼数の推移と収支状況

事業所内で件数や担当ご利用者様の支援状況等の情報を共有し、支援依頼にスムーズに対応出来る体制を構築した事で、昨年度の要介護実績件数に対し、110件の増加となりました。

また、昨年度の一人あたりの要介護実績件数 30.36 件に対し、今年度の一人あたりの要介護実績件数は 32.54 件となり、1.98 件の増加となりました。

②併設事業所間における相互協力

毎月の在宅部門会議や二か月毎の三幸会内ケアマネ会議に出席し、困難ケースへの対応事例や制度改正の情報共有等を行いました。また、山崎園内でも事業所を超えて地域の情報提供や在宅介護についての勉強会を開催しました。 今後も利用者様や地域に関する情報提供に努め、法人全体のレベルアップに努

めます。

③ 地域との積極的な交流により安定した居宅介護支援サービスの提供 利用者様支援において、必要時には介護保険の枠を超えた行政機関とや民間機 関と連携し、包括的に支援を行いました。

また、篠原・入野地区民生委員との交流会や同地区の地域マップ作成に関する 家族介護者教室等へ参加し、地域との繋がり強化に努めました。

苦情について

平成28年度は苦情がありませんでした。

平成28年度実績

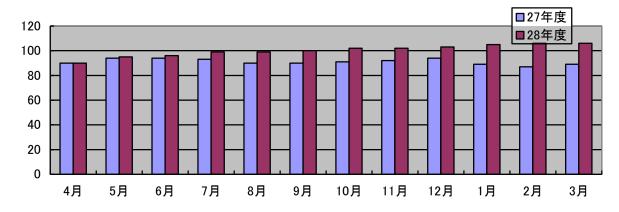
常勤換算 3.08 名

単位:件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
予防給付	30	31	33	29	30	30	27	27	24	23	23	21	328 (+10)
介護給付	90	95	96	99	99	100	102	102	103	105	106	106	1203 (+110)

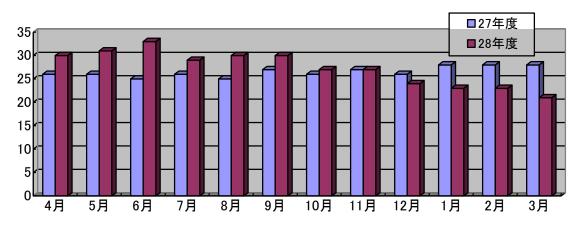
※合計()内は前年度総件数との増減

要介護件数の推移比較



要介護	4 月	5 月	6 月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2 月	3月
27 年度	90	94	94	93	90	90	91	92	94	89	87	89
28 年度	90	95	96	99	99	100	102	102	103	105	106	106

予防件数の推移比較



予防	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
27 年度	26	26	25	26	25	27	26	27	26	28	28	28
28 年度	30	31	33	29	30	30	27	27	24	23	23	21

生活支援ハウス山崎 平成28年度事業報告

【重点実施項目】

①運営事業実施要項

生活支援ハウスは、高齢者に対して介護支援機能、居住機能及び交流機能を総合的に提供することにより、高齢者が安心して健康で明るい生活を送れるよう支援し、もって高齢者の福祉の増進を図ることを目的に設置されていますので、高齢者生活福祉センターとしての役割を運営に掲げました。

②事業内容

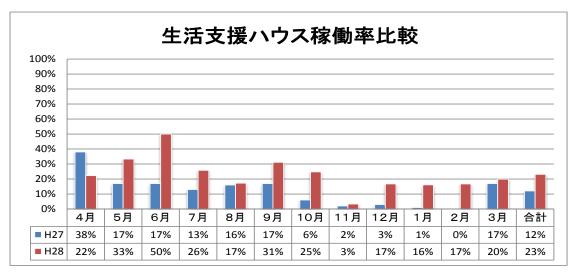
近年、高齢者のDVや家庭トラブル等で緊急に宿泊場所を提供し、一時的な避難場所としての支援ハウス利用が多くなってきました。緊急一時避難場所としての利用のため、短期間で次の施設に移る利用形態が多くなりました。 高齢者あんしん一時宿泊事業は2件受け入れました。

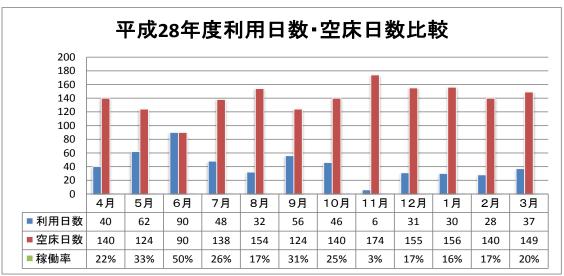
③利用稼働状况

生活支援ハウスを利用するには、浜松市の居住する区役所に本人または家族が 申請書を提出し、利用許可を得る事が必要です。

平成 28 年度の相談件数は 14 件あり、昨年度と比較すると 13 件減少しました。利用に繋がったものは 5 件と少ない結果になりましたが、利用としては昨年度より 1 件増加しています。相談や依頼があっても、支援ハウスで生活するには難しいと判断しお断りしたケースや、直前で他施設への入所が決まりキャンセルとなってしまったケースもあり、なかなか利用率アップに繋げることが出来ませんでした。

高齢者あんしん一時宿泊事業の相談は3件あり、昨年度よりも1件減少していますが、今まで依頼のなかった事業所からの相談もあり、わずかながらも周知されてきていると思います。今後も各施設と連絡をとって情報交換をしていき、また生活支援ハウスのPRを居宅介護支援事務所や地域包括支援センター等に積極的に行い利用率向上に努めていきます。





④苦情について

平成28年度は苦情がありませんでした。

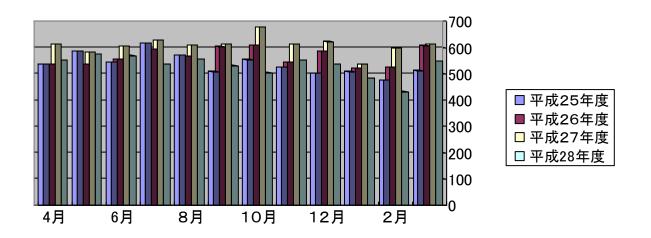
松城デイサービスセンター 平成28年度事業報告

利用者様が能力に応じて無理なく活動に参加して頂けるように工夫し提供しました。日常生活動作などの自立支援、身体機能維持向上の為、身近な取り組みとして嚥下体操や感染症予防の為手洗い体操など行いました。笑顔を引き出しながら楽しく参加できるように取り組むことができました。

① 一般型、認知症対応型合わせて30人を目指します。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平均 (人)	26. 3	26. 2	25. 9	25. 6	24. 2	24. 1	24. 0	25. 0	24. 4	23. 0	21.6	23.8	24. 5

月別利用人数



毎月平均8件営業活動をし、居宅支援事業所、包括支援センターなどへ出向きました。 ご利用者様の様子や近況情報、空き情報等お知らせ致しました。

② 職員の知識向上とサービスの質の向上を図ります 利用者からの要望をもとに、レクレーションなど計画実施につなげました。 28年度 レクリエーション活動報告書

	製作部門	おやつ作り部門	変わり湯
4月	母の日の飾り物	鈴カステラ	よもぎ湯
5月	洗濯はさみくっつき坊や	かしわ餅	しょうぶ湯
6月	七夕作り	わらび餅	どくだみ湯
7月	ステンドグラス風タペストリー	おじゃが団子	ショウガ湯
8月	絵手紙	あんみつ	シソ湯
9月	フォトフレーム	パンケーキ	米ぬか湯
10月	紙粘土小物入れ	たこ焼き	みかん湯

11月クリスマスリースお焼きラベンダー湯12月壁面作りクリスマスケーキゆず湯1月ペン立て風小物入れお汁粉みかん湯2月ふくろうの置物お好み焼きだいこん湯

ぼたもち作り アロエ湯

作り方など勉強会を開催し職員協力し実施しました。 その他、お花見会や納涼祭、敬老会など行事を行いました。

③ 安全に対する意識を高め、事故0を目指します。

自動車事故3件 介護事故0件

◎自動車事故について

3月 壁面作り

- ・自施設駐車場で公用車同士の接触
- ・走行中フロントガラスに飛び石
- ・ 交差点内で接触

大きな事故に繋がらないように情報を共有し安全運転、安心介護に努め事故を減らしていきます。

4 健康管理

ご家族様から様子を伺い体調を把握しました。午前、午後2回体温測定を行うことで健康管理をしました。職員を含めご利用時にはうがい手洗いを行い感染予防に努めました。

松城指定居宅介護支援事業所 平成28年度事業報告

【基本方針】

利用者及び利用者を取り巻く環境を把握し、利用者が住み慣れた地域及び自宅で、可能な限りその能力に応じ自立した日常生活が送られるようにします。また、要介護状態の軽減または悪化の予防を目的に適切なサービスが総合的・効率的に提供されるよう利用者を支援致します。

介護支援専門員の技術の向上を図り、事業所評価の向上を目指します。

【重点実施項目】

① 事業所の安定運営

平成28年度の新規受け入れ件数は一月あたり平均2~5件となり、担当プラン件数は月平均48.58件となり27年度に比べ約12件増加しました。

平成28年度においても居宅介護支援の標準担当件数(39件)を維持できるよう取り組みます。

② 利用者支援

月1回以上の利用者宅への訪問と細めな関係機関への連絡調整を行い、ご利用者 及びご家族の立場に立った支援を行いました。

③ ケアマネジメント技術の向上

月1回以上の法人内勉強会への参加と外部研修会へ積極的に参加しました。平成29年度も積極的な研修への参加により自己研鑽に努めます。

④ 地域のネットワークの形成・活用

中区ケアトーク広場、他法人のケアマネとの事例検討会の参加を通してケアマネとのネットワークづくりの場へ参加しました。

民生委員や医師等との交流会、中区ケアトーク広場及び中区民生委員及び医療関係者との交流会にも参加しました。

⑤ 法人内の他事業所や近隣の事業所との連携・相互協力(チームアプローチ) 法人内の在宅部門会議は、研修や業務の都合で出席困難な場合を除いて参加しま し、在宅部門の情報共有に努めました。他法人の関係者と仕事上交流する機会も 月1回以上と増え、公正・中立な立場で相互協力しました。

他法人の運営する地域包括支援センターには2か月に1回以上は訪問し、空き情報の提供を行いました。訪問時の情報交換により複数の紹介経路を確保できました。

救護施設浜松市立入野園 平成28年度事業報告

【事業運営の概要】

生活保護法に基づく救護施設として、身体上又は精神上著しい障がいがあるために独立して日常生活を営むことができない方等を受け入れ、個人の人権や主体性を尊重した生活支援と自立の助長を図ることを基本に運営しております。

利用者の平均年齢が64.5歳と高齢化が進むなか、居宅生活訓練室の有効活用による自立支援を実施した他、心身の安定と健康の増進に気を配り、奉仕作業、レクリェーション活動等を通して地域との交流を深めてまいりました。

利用者は定員50人のところ昨年度に比べ0.3人減員の月平均53.8人が利用されました。

【経理関係】

経理規程に基づき適正な会計処理に努めるとともに、指定管理者基本協定書を遵守した経費節減、省エネ、エコ推進を図り効率的な予算執行に努めてまいりました。

【労務関係】

就業規則を遵守し、職員の定期健康診断や生活習慣病検診を実施したほか、福利 厚生事業も積極的に実施して健康管理に努めてまいりました。

また、衛生委員会による職場巡視、産業医による助言指導を受ける中から職員が 安心して働ける職場環境づくりに努めました。さらに職場研修をはじめ、外部研 修にも積極的に参加し、職員の資質向上に努めました。

【入所者の処遇】

①生活指導

定期的に処遇会議を開催し、職員全員が利用者個々の情報を共有したうえで、利用者の意思を尊重し、一人ひとりが生き生きとした生活が送れるよう個別支援計画書を策定し、この計画に基づく生活支援をしてまいりました。

平成28年度は5人が入所、5人が退所されました。施設内居宅生活訓練は、2人が自立に向けて訓練を行いました。平均在園期間は13年7月と前年度に比べ1月長くなり、70歳以上の利用者は21人、概ね4割を占めています。高齢者施設等への移行に向け関係機関との連絡調整を図ってまいります。

②教養娯楽

毎日の生活を「心豊かに」楽しいものにするため、移動図書の活用、新聞、雑誌の購読をはじめ、余暇時間を活用して生け花や釣りなどのクラブ活動、農作

業等を楽しみました。一方、ショッピングや社会見学旅行などを通して見聞を 広め、社会性を高めながら心身の安定を図ってまいりました。

③給食

利用者の嗜好を把握しながらカロリーや栄養バランスにも配慮し、季節感溢れる食事、利用者自ら菜園で収穫した旬の食材を採り入れるなど、楽しく食事ができるよう献立と食事の提供方法に工夫を凝らしました。

また、身体の状態に応じて主食の食事量を変更する等、個人の健康に配慮した食事の提供に努めてまいりました。

4)保健衛生

月2回の内科及び4週に1回の精神科嘱託医による定期回診、春・秋2回の健康診断や生活習慣病検診のほか、血圧測定や体重測定をはじめ検尿・検便等も 実施して利用者の健康管理に努めてまいりました。

また、毎日のラジオ体操・園内外の歩行訓練・散歩等により体力の維持を支援したほか、個々の身の回りの衛生面にも充分に気を配りながら、施設内を随時消毒するなど感染症の予防と環境衛生にも力を注いでまいりました。

⑤施設の環境整備と作業

職員による5S運動を励行し、快適な環境のもと利用者に精神的な安定を提供するため、施設の美化、清潔保持はもとより居室の冷暖房の点検、空気清浄機の整備など、常により良い生活環境づくりに努めてまいりました。

作業面では、地元企業の協力を得て、利用者の社会的な自立支援を目的に、紙 箱折作業やマジックパイルの整理作業を行い、働くことの意義、持久力の養成、 忍耐、協調性を養うことを目的に利用者の9割の方が取り組んでいます。

⑥地域交流

納涼祭やクリスマス会に地域の皆様を招待するなどして交流を深めたほか、体験学習の受け入れ、作業を通しての社会参加や地域の公園の草取りにも参加して、地域の皆さんとの交流が図られました。

⑦防災・保安

消防計画に基づき、災害時における施設利用者の安全を確保するため、年2回の初期消火訓練や毎月の避難誘導訓練等の防災訓練を実施する一方、非常用放送設備、スプリンクラー設備等の保守は関係法令を遵守して適正に管理してまいりました。

浜松市立入野園 概要

平成29年3月31日現在

施設名	所在地	施設長名	経営主体	定員	現員	規模・構造
浜松市立	西区大平台	鈴木敏郎	社会福祉法	5 0	5 4	鉄筋コンクリート造2
入野園	1-34-20 入野園	亚八甲(以下)	人三幸会	名	名	階建延 1,272.83 ㎡

職員構成

園 長	事務員	相談員	看護師	ケアワーカー	栄養士	嘱託医	その他	計
1人	1人	2人	1人	9人	1人	(2)人	0人	15人

月末利用者数(28年度)※一時入所含まない。

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
男性	3 0	3 0	3 1	3 0	3 1	3 1	3 1	3 2	3 1	3 1	3 0	3 0	30. 7
女性	2 3	2 3	2 3	2 3	2 3	2 3	2 3	2 3	2 3	2 3	2 3	2 4	23. 1
計	5 3	5 3	5 4	5 3	5 4	5 4	5 4	5 5	5 4	5 4	5 3	5 4	53.8

利用者年齢構成

年齢別	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代	計
男 性	0	0	2	7	1 1	1 0	0	3 0名
女 性	0	0	3	4	6	1 0	1	24名
計	0	0	5	1 1	1 7	2 0	1	5 4 名

平均年齢

区 分	最低年齢	最高年齢	平 均	年 齢
男性	46歳	79歳	63.9歳	G 4
女 性	42歳	80歳	65.4歳	64.5歳

利用者障害別

分類	身体障害	知的障害	精神障害	身体 +知的	身体 +精神	知的 +精神	身体+知的	その他	計
男性	3	2	1 1	0	5	0	1	8	30名
女性	0	1	1 5	1	0	4	2	1	24 名

年金受給状況

区分	障害基礎年金	国民年金(障害)	厚生年金 (老齢)	厚生年金(障害)	その他の年金	未受給	無年金	11
男性	2	2	1 0	1	0	1 3	2	3 0名
女性	1 2	1	5	1	2	2	1	2 4名

入退所状況(28年度)

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	5名
退所	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	5名

在園期間

期間	1年未満	1年以上	3年以上	5年以上	10 年以上	15 年以上	20 年以上	25 年以上	計
	1 十八個	3年未満	5年未満	10 年未満	15 年未満	20 年未満	25 年未満	25 牛丛上	ĦΙ
男性	4	2	5	7	6	0	2	4	30名
女性	1	2	4	2	2	3	3	7	24名
計	5	4	9	9	8	3	5	1 1	54名

平均在園期間

平均	平均年数		園年数		平 均	在園期間
男	性	37年	10ヶ月	11年	1ヶ月	19年7,日
女	性	37年	8ヶ月	16年	9ヶ月	- 13年7ヶ月

介護の状況

区 分	移 動	食 事	排 泄	着 脱
自 立	51名	47名	44名	3 9 名
一部介助	3名	7名	10名	15名
全介助	0名	0名	0名	0名

措置機関別

地	浜	浜	浜	浜	浜	浜	浜	静	静	静	中セ	そ自	
	松	松	松	松	松	松	松	岡	岡	岡	部ン	の費	合
区	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	健タ	他入	
	西	中	浜	北	東	南	天	葵	駿	清	康	所	
名	区	区	北	区	区	区	竜	区	河	水	福		
			区				区		区	区	祉		計
男性	1 7	5	2	1	1	3	0	0	1	0	0	0	30名
女性	1 4	2	2	1	0	1	1	0	0	1	1	1	24名

救護施設浜松市立西山園 平成28年度事業報告

【運営状況】

心身の安定と健康の増進を主眼とし、利用者のニーズを捉えてひとりひとりの自己実現を応援することを主眼として、他施設との交流行事、社会見学、地域交流等を通じて見聞を広め、教養を高めるとともに明るく生きがいを持った生活の場づくりを図ってまいりました。運営収支にあっては、収入の大部分を指定管理料が占めており、空室情報等の提供を行って利用者数の定員確保に努めた結果、月平均利用者数は58.0人で、前年度と比較して0.3人の減員となりました。昭和46年4月に改築された施設のため、古い基準のまま今日に至っております。そのため施設がバリアフリー化されておらず、利用者が車いす対応となると必然的に他施設への移行が必要となります。そのため車イス利用者の受入れができず、また1室5人部屋でプライバシー確保が十分ではないため、利用者からの入所お断りもでてきています。他の施設に比べて不利な状況にありますが、病院や区役所に積極的な働きかけを続けて空室解消に努めるとともに経費の効率的な運用を図ってまいりました。

【経理関係】

築45年余の老朽化した施設ではありますが、補修を必要とする場所につきましては速やかに補修をし、経理規程に基づいて適正な会計処理を行ないました。 予算に基づいて健全な執行を心掛け、生活しやすい設備や物品等の購入や修繕を 行ない環境整備に努めました。

【労務関係について】

就業規則を遵守するとともに、職員の健康診断や生活習慣病検診のほか、保健 修養事業も実施して健康管理に努めてまいりました。また、職員が安心して働け る職場環境づくりに努めるとともに、職場内研修をはじめ外部研修にも積極的に 参加して職員の資質の向上に努めました。

【入所者の処遇について】

生活指導

自立した生活が出来るよう入所者個々の可能性の発見に努める一方、意向を 尊重し、生き生きとした生活を送り自己実現が図れるよう、年2回の個別支援 計画書を作成し、これに基づいた支援を実施しました。、また、相談に対して も適切な助言を行うとともに、関係機関との連絡調整を図り安心して生活がで きるよう努めてまいりました。

② 教養娯楽

日常生活を楽しくゆとりある生活を送っていただくため図書や音楽CDの 常時貸出、散歩・映画鑑賞・カラオケ・料理・裁縫・読書等のクラブ活動を行いました。中でも家庭科クラブは自立に向けた訓練を兼ねており、居宅訓練事 業と併せて今後の成果が期待されています。

③ 給食

嗜好調査を実施し、その結果に基づきカロリーや栄養のバランスを考慮したうえで、季節感を取り入れたりして、毎日楽しい食事が出来るよう献立づくりに努めてまいりました。また、身体・栄養状態を配慮して、食事量の加減を利用者と共に話合いをもって実施いたしました。

4)保健衛生

月2回の内科及び4週に1回の精神科の嘱託医師による定期回診のほか、毎年2回の健康診断や生活習慣病検診で検査を受ける一方、食事前の手洗いと毎日2回のうがいの励行及び健康チェックによる健康管理に努めてまいりました。また、毎日のラジオ体操、ストレッチ体操及び園内の歩け歩け訓練により体力の維持に努めるほか、血圧測定や体重測定をはじめ検尿・検便等も実施して保健予防にも努め、個々の身の回りの衛生面にも充分に気を配りながら、施設内も随時消毒するなど環境衛生に万全を期してまいりました。

⑤施設の環境整備と作業

心地良い施設環境のもとで、精神的にも安定した気持ちで生活を送っていただくため、居室の冷暖房設備の点検等を行うとともに空気清浄機能付加湿器を各居室に設置し、ゆとりある生活環境づくりに努めてまいりました。また、平日の約4時間の作業については施設内の場所確保が困難な中ではありますが、月2回の施設外の農耕作業も含めて、仕事に対する持久力の涵養、忍耐、協調性を養うことを目的に取り組んでまいりました。

⑥地域交流について

施設の納涼祭には地域住民の皆さん約250人が来園され、地元自治会主催の夏まつりにも参加いたしました。また、近くの神田川の草刈りなどにも参加して地域の皆さんとの交流が図られました。

⑦防災・保安に関すること

消防計画に基づき、災害時における施設利用者の安全を確保するため職員の 防災意識の高揚を図る一方、消防設備の保守点検並びに月1回の初期消火訓練 や避難誘導訓練等の防災訓練も定期的に実施してまいりました。

⑧居宅訓練事業の実施

平成28年11月から地域社会への移行を目標として、西山園から歩いて5分程度のところのアパート2室を借り上げて、2名の方を対象に最長1年間を目途に訓練を開始いたしました。月曜日から金曜日は、西山園に作業を行うため通所のような形態で訓練を行っております。土曜日と日曜日は路線バス等を利用して日用品の買物、また自炊などの訓練を開始いたしました。

浜松市立西山園 概要

平成29年3月31日

現在

設置主体	指 定 管 理	定員	現員	規模・構造
浜松市	社会福祉法人 三幸会	60人	56人	鉄筋コンクリート 2 階 延 1, 012. 60 ㎡

職員構成

(人)

施設長	事務員	相談員	看護師	栄養士	介護員	嘱託医	計
1	1	1	1	1	1 2	(2)	1 7

入退園状況

(人

												,	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入園者	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	2	0	5
退園者	0	1	0	0	2	0	2	0	0	0	1	2	8

入園者年齢構成

(人)

<u> </u>	<u> </u>	1, 11.1,474						() ()
		20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳	70 歳以上	計
男	性	1	1	5	1 0	2 0	4	4 1
女	性	0	0	3	7	3	2	15
合	計	1	1	8	1 7	2 3	6	5 6

平均年齢

(歳)

	最低年齢	最高年齢	平 :	均 年 齢
男 性	2 1	7 5	58.3	5.9.2
女 性	4 5	7 3	58.1	00.0

入所期間

	最 低	最 高	平均	入 所 期 間
男性	1ヶ月	30年1ヶ月	8年11ヶ月	9年11ヶ月
女性	2年1ヶ月	27年3ヶ月	12年5ヶ月	9 平11ヶ月

障害別 (人)

	身体	知的	精神	身体	身体	知的	身体+知的	その他	計
				+知的	+精神	+精神	+精神		
男性	6	3	1 9	1	1	1	0	1 0	4 1
女性	0	2	1 0	О	0	3	0	0	1 5
合計	6	5	2 9	1	1	4	0	1 0	5 6

介護(着脱・食事・用便等)の状況 全員が介助不要者

入退院(延数) 入 院 17人(精神科11人 その他 6人) 退 院 14人

園外通院状況 (延数)

(人)

透析	歯科	皮膚科	眼科	整形外 科	精神科	その他	計
3 1 4	1 3 7	5 3	93	2 5	5 4	8 5	7 6 1

西山園診療所 (定期) 健康診断及び診察 (延数)

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3 月	年間
内 科	54	54	54	56	55	54	53	53	55	56	53	54	651
精神科	43	42	40	42	41	43	40	82	41	41	40	41	536
合 計	97	96	94	98	96	97	93	135	96	97	93	95	1, 243

【作業実施状況】

作 業 名	従事者数	従 事 時 間
マジックパイル整理	39人	月~金 8:30-11:30
自動車部品ゴムのバリ取り	13人	13:30-15:00

【各種行事】

行 事 名	回数	参加人数	内容
誕生会	1 2	全員	ケーキと特別食でお祝い
日帰りレクリェーション	6	1 5 7	三島方面ほか
一泊レクリェーション	1	2 8	大阪方面
物故者を偲ぶ会	2	全員	入所者で亡くなった方の慰霊祭
ソフトボール大会	1	3 3	県内8救護施設で試合
スポーツ大会	1	4 0	市内 5 救護施設で競技
カラオケ大会	1	3 6	市内 5 救護施設で競演
園内運動会	1	全員	中庭でラムネ飲み競争など
家族会	1	3 6	近況報告や懇談など
クリスマス会	1	全員	ボランティア団体の楽器演奏
ゲーム大会	3	全員	競技用輪投げ大会ほか
納涼祭	1	全員	地域住民との交流 出店 盆踊り
西山町夏祭り	1	1 7	地域住民との交流

ほかに 七夕、節分、書き初め、初詣など実施

浜松市立軽費老人ホーム佐鳴荘 平成28年度事業報告

【事業運営の概要】

全国的な超高齢社会の中、佐鳴荘での高齢化・虚弱化も進み、介護保険サービスや職員・家族等の支援なしでは自立生活を営むことの困難な方が増えてきましたので、本年度も「介護予防」を目標に掲げて、積極的な外出支援・声かけ・見守り・相談活動等に努めてまいりました。

最近は全国的に有料老人ホーム等が増えている影響も受け、以前に比べると待機者が減少し、新たな入所者の確保が課題になってきております。

浜松市立軽費老人ホーム佐鳴荘は、A型の軽費老人ホームとして浜松市が昭和39年に設置した施設であり、社会福祉法人三幸会が昭和56年から管理運営を受託、平成18年4月からは指定管理者制度での指定を受け、以来35年に亘って永年管理運営に携わってまいりました。

しかしながら、市の方針として、現在の指定管理期間が終了する平成29年3月31日をもって、「浜松市立軽費老人ホーム条例」を廃止し、平成29年4月1日から民営化されることになりました。新たな運営法人は公募により応募した三幸会を含む社会福祉法人4社の入札の結果、三幸会以外の社会福祉法人に決まり、三幸会は佐鳴荘の管理運営から撤退することとなりました。

【利用状況】

①利用者数(男女別·年齢別·3月末時点)

	平成 25	平成 26	平成 27 年度		平成28年度								
	年度			60~	70~	75~	80~	85~	90 才~	計			
	十尺	干反	十尺	69 才	74 才	79 才	84 才	89 才	90 7	pΙ			
男	10	11	11	0	2	3	2	2	0	9			
女	40	37	36	1	4	4	10	10	9	38			
計	50	48	47	1	6	7	12	12	9	47			
平均年齢	80.2才	82.0才	82.9才	82.9才									

②在籍期間

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成2	8年度
	平均在籍期間	平均在籍期間	平均在籍期間	平均在籍期間	最長在籍期間
男	3. 78	3. 99	4. 73	3年11ヶ月	11年9ヶ月
女	5. 68	6. 47	6. 92	6年3ヶ月	27年5ヶ月
計	5. 30	5. 90	6. 40	5年11ヶ月	

③入退所状况

<入所理由別>

	平成 2 5	平成26	平成27	平成28年度					
	年度	年度	年度	平成28年度					
	入所数	入所数	入所数	単身世帯 家族関係 病院 他施設 計					
男	2	2	1	0	1	1	0	2	
女	3	1	4	2 3 2 0 7					
計	5	3	5	2 4 3 0 9					

<退所理由別>

	平成25	平成 2 6	平成 2 7	平成28年度						
	年度	年度	年度	平成28年度						
	退所数	退所数	退所数	他施設 長期入院 自宅他 死亡 計						
男	1	1	1	2 0 1 1 4						
女	3	4	5	5 0 0 0 5						
計	4	5	6	7 0 1 1 9						

④健康状態

<入院者数>

	平成28年度
内 科	6
外 科	1
その他	0
計	7

<外来受診者数>

	平成28年度
内 科	45
整形外科	7
その他	5
計	57

複数科への受診あり

⑤要介護認定者数 (3月末時点)

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成28年度						
	度 一度	度	度	男	女	訪問介護	通所介護			
	反	反	反	Ħ	女	利用者数	利用者数			
要支援	16	13	10	0	10	2	8			
介護1	3	5	6	2	7	7	8			
介護2	1	1	3	0	1	0	0			
介護3	0	0	0	0	0	0	0			
計	20	19	19	2	0	9	16			

⑥空床数(年間)

年度別	退所後日数	入院日数 外泊日数 空		空床日数計	退所者数	入所者数
平成28年度	1, 101	339	78	1, 518	9	9
平成27年度	347	195	119	661	6	5
平成26年度	73	120	83	276	5	3

【利用者の処遇】

① 自立生活の支援

厚生労働省の「軽費老人ホームの設備及び運営に関する基準」に基づき、これまでの施設内支援に加え、介護予防を目的とした訪問介護、通所介護等の介護サービス利用を促進し、入所者の健康で安心できる自立生活の継続を支援してまいりました。

保証人様の高齢化・疎遠等によってご家族の協力が期待できない入所者も見受けられますが、施設での「特別援助サービス」として通院付添い・買物代行・服薬管理・居室配膳・テーブル配膳等の有料サービスを実施し自立支援を図ってまいりました。このうちテーブル配膳は、高齢からくる身体の衰え、杖の使用等により配膳を余儀なくされる方が多くなったことから毎年増加傾向にあります。

また、認知症状等から内服薬を飲み忘れる方も見受けられ、ご本人・保証人 様からの依頼を受けて服薬管理される方も増えてまいりました。

<特別援助サービス年間利用状況>

年度別	通院付添	事務代行	買物代行	居室 配膳 下膳	服薬管理	洗濯代行	テーブ ル配膳 (全て)	テーブ ル配膳 (汁)	金銭管理	計
平成28年度	11	0	0	345	4, 283	5	5, 159	2,614	1	12, 418
平成27年度	7	1	1	342	4, 593	5	3, 257	4, 262	1	12, 469
回数等	1回	1回	1回	1回	1 日	1回	1回	1回	1月	

② 生きがい活動の支援

日々明るく充実感を持って過ごしていただくよう習字・絵手紙・カラオケなどのクラブ活動をはじめ、春と秋のバス旅行・佐鳴湖畔への散歩・ミニツアー・グルメツアー等、出掛ける機会を多く設けて居室へのひきこもり防止に努めてまいりました。一方、高齢等により行事に参加できない方への娯楽メニューにも工夫を凝らし、誰でも参加のできるゲーム大会・菜園の収穫・簡単な小物作り等を実施してまいりました。コーヒータイムは、一ヶ月に2回ほどコーヒーを味わいながら、ゲームや音楽を楽しんでいます。

また、歌・舞踊・演芸・大正琴・落語慰問等ボランティアグループを多く招聘 し、明るく和やかな娯楽の場を提供してまいりました。

≪クラブ活動≫

習字	第1・3 水曜日	カラオケ	第 2 水曜日
絵手紙	第 2 土曜日	体操	第 4 月曜日
レクリエーション	第 3 木曜日	健康体操教室	第1・2 木曜日

≪行事関係≫

4月	グルメツァー・ふれあいコーヒ ータイム・お花見	10月	三幸会まつり・家族会・落語 慰問・大正琴演奏会
5月	春の旅行(豊川稲荷)・実演調 理・八十八夜新茶会	11月	秋の旅行 (龍潭寺)・イベント 食・ふれあいコーヒータイム
6月	芋煮会・グルメツアー・大正琴 演奏会	12月	クリスマス会・グルメツアー
7月	納涼祭・七夕会・ふれあいコー ヒータイム	1月	新年祝賀会、初詣·新年会(食事会)·大正琴演奏会
8月	グルメツァー・佐鳴湖花火大会 鑑賞・ふれあいコーヒータイム	2月	節分(地域老人クラブと共催)・子ども会との交流会
9月	敬老会・慰霊祭・ふれあいコー ヒータイム	3月	ふれあいコーヒータイム・お 別れ会

③ 給食の充実と衛生管理

入所者の最大の楽しみである食事には特段の創意工夫を凝らし、旬の食材を使用し、季節感ある雰囲気作りをした場所での食事の提供を心掛けました。特に高齢者の嗜好に配慮し、嗜好調査結果を献立に反映させ可能な限り要望に応じた食事を提供してまいりました。

さらに誕生会の祝膳・四季折々の行事食に加えて、地域の方々をお招きした 芋煮会、鍋料理、うな玉丼・親子丼、カツ丼・エビフライ丼等の実演調理セレク ト食などイベント性が高く、匂いや音も楽しめる食事を提供し、食への満足度を 高めていただくとともに、手作りとぬくもりのある家庭的な雰囲気の中での食事 提供を心掛けてまいりました。

一方、食の安全には細心の注意を払い、大量調理マニュアルに基づく厨房業務の衛生管理はもとより、食堂入口での手洗い・殺菌の励行、感染の恐れがある場合の居室配膳、食事の居室持ち帰り制限等を積極的に推進し、食中毒・ノロウィルス感染の未然防止に努めました。

④健康管理の指導・助言

毎月3回の嘱託医による回診及び年2回の定期健康診断並びに看護師による毎月の体重・血圧測定、日々の居室ラウンドにより入所者の体調把握に努めたほか、必要に応じて受診指導・服薬管理指導・家族への状態報告等を推進し、入所者の健康管理を側面から支援してまいりました。

また、朝夕のラジオ体操に加えて、健康体操の実施やレクリエーションを通 して、入所者の体力保持・増進、元気回復に努めました。

感染予防対策としては、職員対象に3カ月毎の感染対策委員会を開いたほか、 全入所者へのインフルエンザ予防接種と希望者に対し肺炎球菌ワクチンの実施、ノロウィルス対策として手洗い、うがい講座を開催し、効果的な手洗い方 法を指導、実践してまいりました。

【施設の安全管理と環境整備】

法に基づく消防設備点検、施設機器設備保守点検等を実施したほか、日常の施設点検を励行し、危険個所の早期発見と除去に努めてまいりました。

訓練では、入所者と職員による月1回の避難訓練・入野中学校までの避難訓練のほか、消火器・防煙扉の使用実践訓練等を行い、自助と連帯の意識啓発を図るとともに、救命救急には迅速に対応できるようAEDの使用方法を入所者の皆様にも参加していただきました。

環境整備については、デマンド監視装置による電気量の「見える化」を図り照明及び冷暖房の効率的使用の励行、施設内の一部を LED 電球に交換し、省エネに繋げてまいりました。デマンド監視装置は、職員にも浸透してきており、節電に対する認識が深まりました。

また、佐鳴荘の自然に恵まれた環境の維持・保全のために毎週月曜日を施設美化の日とし、利用者と職員が協働で施設内外の清掃・美化作業にあたりました。

【地域社会との交流促進】

施設内で実施の納涼祭、節分豆まき大会、芋煮会などには地域の皆様を招待したほか、地元自治会主催の祭り、佐鳴湖クリーン作戦、公園の草取り奉仕等に参加し、地域の一員としての役割を積極的に果たしてまいりました。

また、中学生の体験学習、子ども会の慰問も積極的に受入れ、世代を超えた域と共生する施設づくりを推進してまいりました。

仮称神ヶ谷園建設特別会計 平成28年度事業報告

【仮称神ヶ谷園建設に至る経緯】

平成27年4月、浜松市は老朽化の激しい救護施設の浜松市立西山園(定員60人)入野園(定員50人)を廃止して、これらの代替施設として両園の定員を合計した110人定員の1施設を、従来の公設民営から民設民営で行うための事業者を公募し、7月、両園の指定管理者として運営実績のある社会福祉法人「三幸会」が新施設「仮称神ヶ谷園」の建設運営を行うことが決定されました。

【建設特別会計関係】

仮称神ヶ谷園建設に要する全ての経費等について、「仮称神ヶ谷園建設特別会計」を設け、経理規程に基づき適正な会計処理と予算執行に努めてまいりました。

【業務委託契約関係】

神ヶ谷園新築工事に係る造成工事及び新築工事の入札を行い、両工事とも株式会社中村組が落札され工事請負契約を締結いたしました。

- ・神ヶ谷園造成工事請負契約金額 金41,040,000円(税込)
- ・神ヶ谷園新築工事請負契約金額 金901,800,000円(税込)

【平成28年度執行額】

収入

拠点区分間繰入金収入他 金 22,000,048 円

支出

造成工事及び新築工事請負契約に係る諸経費、建築確認申請手数料等 金 532,564 円

【事業進捗状況】

平成28年度は、4月に造成工事の入札を行い、9月~10月に掛けて擁壁工事、フェンス設置工事等の第1期造成工事を終えました。12月に神ヶ谷園新築工事の入札を行い、株式会社中村組が落札されました。1月には大平台地区自治会に建築工事の住民説明会を開きご理解をいただき、起工式を経て建築工事に着手いたしました。2月から毎週火曜日に社会福祉法人三幸会、有限会社岡本一級建築工事務所、株式会社中村組ほか設備を担当する会社との間で定例会を開催し、建築工事に係る諸課題の調整を図り、より良い施設となるよう進めています。

平成28年度	4月~3月	社会福祉法人三幸会	全事業所実績の見える化

平成28年度	4月~3月		社会福祉	法人三幸会	全事業所	所実績の見	える化		
	平均值								
事業所	定員	末日定員	空床日数×床数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度
特別養護老人ホーム三幸の園	110名	109. 42	38. 50	2. 08	5. 92	38. 67	36. 17	26. 58	3.72
		※110名を目指す	•						
事業所	定員	要支援1実人数							
短期入所施設三幸の園	20名	2. 50	0.42	76.08	98. 58	157. 58	85.83	64.67	2. 93 15. 92 79. 6%
									※要支援含まず
事業所	定員	西士極1 / 粉	要支援2人数	一 西 介 苯 1 人 米	要介護2人数	一 西 公 港 2 1 米	一 西 公 港 4 1 米	要介護5人数	平均介護度 平均人数/日 利用率
三幸の園デイサービスセンター一般型	30名	20.83	38.92	210.50	351.33	52.75	44.67	8.58	1.91 24.34 81.1%
二年の風ノイケーにハビング 一放主	30/1	20.03	30. 32	210.50	101.00	52.15	44.01	0.00	1. 51 24. 54 61. 1/0 ※要支援含まず
事業所	定員	要支援1人数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度 平均人数/日 利用率
三幸の園デイサービスセンター認知症対応型	9名	0.00	0.00	19. 75	9. 25	23. 25	10.75	8.00	2. 77 3. 27 36. 4%
									※要支援含まず
→ 1/L → L		イルロ エ 火		/. 11 6 allows 101		T	- nt - t - t	T-11 1 1/11 1 1	7
事業所		利用人数		身体介護回数				平均人数/日	1
三幸の園ホームヘルパーステーション		23. 58	181.08	50.33	33. 58	37. 17	60.00	8. 51	1
事業所		要支援プラン数	要介護プラン数	職員常勤換算值	職員一人当たりプラン数	平均介護度	要支援新規受入数	要介護新規受入数	.]
三幸の園指定居宅介護支援事業所		19. 08	101. 67	3.00	40. 25	2.02	0. 25	2.83	1
						※要支援含まず			•
					•				
事業所		利用人数		平均人数/日					
訪問看護ステーション大平台		34. 75	206. 75	9.68					
本 业工			T-1-2-0 - W	An A least of Mr.		→ v/. → n4→° =:	1		
事業所地域包括支援センター大平台		直営要支援プラン数		総合相談件数			4		
地域包括文族センター人平台		87. 33	121.50	110.75	7. 25	39. 17	J		
事業所	定員	末日定員	空床日数×床数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度
特別養護老人ホーム山崎園(従来型)	50名	49.67	10. 17	0.58	2. 50	14. 33	21. 17	11. 08	3.80
特別養護老人ホーム山崎園(ユニット型)	50名	49. 42	27. 08	1. 58	2. 67	14. 42	19. 58	11.00	3. 73
		※各50名を目指す		-					
						ı		•	
事業所	定員	要支援1実人数				要介護3実人数	要介護4実人数		3713
短期入所施設山崎園	20名	0.00	1. 17	66.00	144. 42	63. 58	100. 58	35. 50	2. 74 13. 52 67. 6%
ユニット型短期入所施設山崎園	10名	7. 42	6. 17	18.92	66. 08	28.00	63. 42	17.00	2.96 6.81 68.1% ※要支援含まず
									次安又仮占より
事業所	定員	要支援1人数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度 平均人数/日 利用率
やまざきデイサービスセンター一般型	30名	30. 33	34. 83	199.50	127. 33	76. 75	18. 42	14. 50	1. 90 23. 17 77. 2%
, 3. 2 2 / //									※要支援含まず
									_
事業所		利用人数				身体生活複合回数	予防支援回数		
やまざきホームヘルパーステーション		18. 25	221.83	80.92	10.75	91.00	39. 17	10. 29]
事業所	定員	空床日数×床数	要支援2人数	要介護1人数	亜介罐の1米	亜介誰っし料	更介誰/ 1 料	要介護5人数	亚均介蕹亩
グループホームやまざき	9名	9. 33	0.00	5.17	2.17	1.25	0.17	0.00	1.59
// / M A L & C C	3/1	<i>ა.</i> აა	0.00	0.11	۵.1۱	1. 40	0.17	0.00	1. 09 ※要支援含まず
事業所	定員	要支援1人数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度 平均人数/日 利用率
グループホームやまざきデイサービス	3名	0.00	0.00	0.75	1.08	1. 33	0.00	0.00	1. 64 1. 59 53. 1%
							·		※要支援含まず
			1			T		1 .	7
事業所		要支援プラン数		職員常勤換算值			要支援新規受入数		4
山崎園居宅介護支援事業所		27. 33	100. 25	3.08	41.69	2.10	0.33	4.00	1
						※要支援含まず			
事業所	定員	末日定員	空床日粉>中料	平均人数/日	利用率	1			
尹耒月 生活支援ハウス山崎	6部屋9名	1.50	140. 58	1.38	22.9%	1			
	の日的王の日	1.00 ※6名以上を目指す		1.00	<i>44. 3/</i> 0	_			
事業所	定員	要支援1人数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度 平均人数/日 利用率
松城デイサービスセンター一般型	30名	14. 17	37.00	156. 92	122. 75	52. 75	58.00	6. 17	2. 07 20. 64 68. 8%
							_		※要支援含まず
						_			
事業所	定員	要支援1人数		要介護1人数				要介護5人数	17/17
松城デイサービスセンター認知症対応型	12名	0.00	0.00	0.00	1.83	11.00	22. 33	44.83	4. 39 3. 69 30. 8%
									※要支援含まず
車業市		≖ +極っ° =、₩	r 西△进っ° =、火	- 陸口坐性を外に		. 亚特人类点	■子检验1144 · **	西人地が10-71 ***	1
事業所			(要介護/ 7/数 20 02	職員常勤換算值		半均介護度 1 57			1

48. 58 1.57 0.75 ※要支援含まず

1.25

事業所	定員	末日定員	空床日数×床数	介護保険利用者数	療育手帳者	精神障害手帳者	身体障害手帳者
救護施設浜松市立入野園	50名	53, 83	36, 25	0.00	9.50	22. 75	7.42

※55名を目指す

17.67

30.92

1.00

事業所 救護施設浜松市立西山園 定員 末日定員 空床日数×床数 介護保險利用者数 療育手帳者 精神障害手帳者 身体障害手帳者 60名 58.08 53. 58 0.00 10.00

事業所 末日定員 | 空床日数×床数 | 月内退所者 | 月内入所者 46. 92 126. 50 0.75 ※50名を目指す

松城指定居宅介護支援事業所

空床床数とは入院や退所などにより一時的に空いていて職員が処遇しない床の数です。空いている数の総日数を記載します。入院日や退院日は除いて考えます。 また、末日定員は毎月最終日の入居している人数です。

4月~3月 平均値

										_	
事業所	年度	末日定員	空床日数×床数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度		
	平成23年度	109.58	53. 42	3.67	10.58	27. 25	33. 67	34. 42	3.77		
	平成24年度	109.67	33.83	2.33	6.42	27. 25	35. 75	37. 92	3.92		
特別養護老人ホーム三幸の園	平成25年度	109.50	28.67	3.83	4.00	25.00	39. 25	36. 92	3.93		
	平成26年度	110.00	21.58	3. 33	6. 58	30. 17	34. 33	35. 58	3.84		
	平成27年度	109.67	22.83	3. 25	6.42	30.50	36. 50	32.83	3.82		
	平成28年度	109.42	38. 50	2.08		38. 67	36. 17	26. 58	3.72		
					•						
事業所	年度	要支援1実人数	要支援2実人数	要介護1実人数	要介護2実人数	要介護3実人数	要介護4実人数	要介護5実人数	平均介護度	平均人数/日	Ī
	平成23年度	0.25	1.33	104. 58	137.75	127. 25	75. 50	126. 17	2.97	18.77	
	平成24年度	2.25	8.00	91.83	109.67	134. 92	116.58	106.67	3.07	18.97	
豆期入所施設三幸の園	平成25年度	2.25	6.92	65.00	106.50	197.83	102.17	57. 58	2.96	17.70	
立 州 八 川 旭 政 二 羊 0) 图	平成26年度	0.75	0.42	53.08	137.08	171.58	111. 17	49.92	2.94	17. 23	
	平成27年度	0.00	0.00	50. 58	112.42	165.83	107.08	83. 92	3. 12	17.05	Ī
	平成28年度	2.50	0.42	76.08	98. 58	157. 58	85. 83	64. 67	2.93	15. 92	Ī
											_
事業所	年度	要支援1人数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度	平均人数/日	J
	平成23年度	37. 00	33.00	277. 42	115.33	45. 25	39. 42	1. 92	1.69	25. 66	Ī
	平成24年度	26. 25	92.50	216. 33	136.08	29.50	45. 08	0.00	1.77	25. 62	Ī
二土の国ニノル バット・カー 棚田	平成25年度	32.83	101.00	192. 08	138.00	58. 17	57. 17	0. 58	1.96	26. 95	Ī
三幸の園デイサービスセンター一般型	平成26年度			231. 33		66. 58	52. 92	4. 08	1. 91	27. 19	t
	平成27年度		38. 08	229. 75	194. 83	46. 67		9. 50	1. 90	26. 88	t
	平成28年度			210. 50	151. 33	52. 75	44. 67	8. 58	1. 91	24. 34	t
	1790== 1/20										_
事業所	年度	要支援1人数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度	平均人数/日	T
• 218/21	平成23年度		0.00	14. 08	29. 42	10.67	8. 17		2. 59	3. 32	t
	平成24年度		0.00	14. 50	9. 75	44. 58	5. 75	12. 25	2. 90	4. 02	t
	平成25年度			6. 50		28. 83	6. 92		2. 97	2. 65	t
三幸の園デイサービスセンター認知症対応型	平成26年度			0. 50	12. 58		6. 67	7. 75	3. 19	1. 59	t
	平成27年度			0. 08	0.67		9. 75			0.88	t
	平成28年度		0.00	19. 75	9. 25	23. 25	10. 75	8. 00	2. 77	3. 27	t
	1 /3/20 1 /2	0.00	0.00	10.10	J. 20	20.20	10.10	0.00	2. 11	0.21	T
事業所	年度	利用人数	派遣同数	身体介護回数	生活援助回数	身体生活複合回数	予防支援回数	平均人数/日			
9: 715/71	平成23年度			40. 42	31. 67	15. 50	45. 00	5. 98			
	平成24年度			30. 75	45. 58	17. 92	47. 83	6. 59			
	平成25年度			34. 42		22. 50	49. 33	7. 21			
三幸の園ホームヘルパーステーション	平成26年度			39. 92		22. 17	37. 00	6. 92			
	平成27年度			63. 33	32. 92	29. 00	37. 83	7. 68			
	平成21年度平成28年度										
	平成20年度	∠3 . 36	181. 08	50. 33	33. 58	37.17	60.00	8. 51			
事業所	年度	要支援プランメサテ	要介護プラン数	職員常勤換算値	職員一人当たりプラン数	平均介護度	要支援新規受入数	要介護新規受入数			
F /N//	平成23年度			2.88		2.01	1.33	2. 75			
	平成23年度平成24年度			2. 71		2.01	0.83	2. 73			
	平成24年度平成25年度			2. 71		2. 25	1. 00	2. 33 3. 42			
三幸の園指定居宅介護支援事業所							0. 50	2. 83			
	平成26年度			3.00							
	平成27年度			3.00		2. 16	0. 92	2.67			
	平成28年度	19.08	101. 67	3.00	40. 25	2.02	0. 25	2.83			
事 米 正	左曲	利田 / 粉	派事回料	平台 1 米 7 円	Ī						
事業所				平均人数/日							
	平成23年度			5. 29							
	平成24年度			6. 59							
坊問看護ステーション大平台	平成25年度			6. 39							
	平成26年度			6. 79							
	平成27年度			8. 55							
	平成28年度	34. 75	206. 75	9.68							
					•						
事業所	年度	直営要支援プラン数	再委託プラン数	総合相談件数	権利擁護相談件数	二次予防プラン					
ザ木///											
デ 木 / / /	平成23年度		86. 92		9. 75	10.92					

122.00

106. 42

117.58

119.67

121.50

125.08

101.08

118.42

118.50

110. 75 7. 25

5.75

8.83

10.33

8.75

11. 17

6.75

6.58

4.42

39. 17

平成24年度 79.25

平成25年度 67.92

平成26年度 58.83

平成27年度 62.75

平成28年度 87.33

地域包括支援センター大平台

7	2均值	

L. Mis man			T							1	
事業所	年度		空床日数×床数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度		
特別養護老人ホーム山崎園	平成23年度	99. 17	102.00	7.92	13. 17	28.83	29.83	19.33	3.40		
特別養護老人ホーム山崎園	平成24年度	98. 50	56. 50	8.00	8.83	26. 58	32. 67	22. 17	3.53		
特別養護老人ホーム山崎園	平成25年度								3. 35		
特別養護老人ホーム山崎園(従来型)		49. 67	15. 67						3. 33	ı	
	平成26年度									A	
ユニット型特別養護老人ホーム山崎園		49. 92							3. 31	4	
特別養護老人ホーム山崎園(従来型)	平成27年度	49. 58	24.83					7.08	3.50	4	
ユニット型特別養護老人ホーム山崎園	1 /3/21 - 1/2	49.58	44.92	2.75	6.25	15. 58	13.75	11.25	3.49	l l	
特別養護老人ホーム山崎園(従来型)	五十00年底	49.67	10. 17	0.58	2.50	14. 33	21. 17	11.08	3.80		
ユニット型特別養護老人ホーム山崎園	平成28年度		27. 08	1. 58			19. 58	11.00	3. 73	1	
2111/// 文版 自火(4)		10. 12	211 00	1.00	2. 0.	11. 15	10.00	11.00	0.10	1	
事業所	年度	要支援1実人数	要支援2実人数	要介護1実人数	要介護2実人数	要介護3実人数	要介護4実人数	要介護5実人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
短期入所施設山崎園											
	平成23年度		7. 83	166. 17	164. 08						80.8%
短期入所施設山崎園(従来型)	平成24年度	3. 17		71. 25	103. 58				2.77		80.7%
ユニット型短期入所施設山崎園	1790-1720	1.83	7. 25	28. 33	66. 92	63. 75	42.33	3.83	2.64	7.06	70.6%
短期入所施設山崎園 (従来型)	平成25年度	0.00	0.25	83. 17	80.08	134. 25	129.58	31.92	2.88	15. 10	75.5%
ユニット型短期入所施設山崎園	平成25年度	0. 58	6. 33	52. 33	67. 42	46.75	28.00	18. 17	2.49	7. 22	72.2%
短期入所施設山崎園 (従来型)		0. 17	1.42						2.71		71.5%
ユニット型短期入所施設山崎園	平成26年度	0. 00	3. 50								76. 2%
短期入所施設山崎園(従来型)	平成27年度								2. 78		67. 5%
ユニット型短期入所施設山崎園											74.3%
短期入所施設山崎園(従来型)	平成28年度	0.00	1. 17	66.00	144. 42	63. 58	100.58	35. 50	2.74	13. 52	67.6%
ユニット型短期入所施設山崎園	十八八八〇十尺	7.42	6. 17	18. 92	66. 08	28.00	63. 42	17.00	2.96	6.81	68. 1%
事業所	年度	要支援1人数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
- (17/2)	平成23年度		26. 83								71. 3%
	平成23年度平成24年度		50. 00								71. 6%
	. , ,										
やまざきデイサービスセンター一般型	平成25年度		33. 50								71. 5%
	平成26年度		40. 25								74. 3%
	平成27年度		48. 17	204.67	159.75	67. 92	54.67	0.00	1.94	25.38	84.6%
	平成28年度	30. 33	34.83	199.50	127. 33	76. 75	18.42	14.50	1.90	23. 17	77.2%
事業所	年度	利用人数	派遣回数	身体介護回数	生活援助回数	身体生活複合回数	予防支援回数	平均人数/日			
	平成23年度							8. 58	1		
	平成24年度							8. 60	i		
									1		
やまざきホームヘルパーステーション	平成25年度							8. 59	1		
	平成26年度							8. 97	1		
	平成27年度		219.42	84.83	15. 92	98.00	20.67	10. 12			
	平成28年度	18. 25	221.83	80.92	10.75	91.00	39. 17	10.29			
事業所	年度	空床日数×床数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度		
	平成23年度	1. 92	0.00	2.00	5. 17	0.42	0.42	0.00	1.91	1	
	平成24年度								1. 89		
										ł	
グループホームやまざき	平成25年度								1.60	ł	
	平成26年度			5.00	1.58	1.1.1111	0.42	0.00	1.60	-	
	平成27年度	0.00								Į.	
				5. 42		2.33	0.00	0.00	1.66		
	平成28年度				1. 25 2. 17	2.33	0.00				
						2.33	0.00		1.66	 	
事業所		9. 33		5. 17	2. 17	2. 33 1. 25	0. 00 0. 17	0.00	1. 66 1. 59	平均人数/日	利用率
事業所	平成28年度	9.33 要支援1人数	0.00 要支援2人数	5. 17 要介護1人数	 2.17 要介護2人数 	 2.33 1.25 要介護3人数 	0.00 0.17 要介護4人数	0.00 要介護5人数	1.66 1.59 平均介護度		利用率 90.8%
事業所	平成28年度 年度 平成23年度	9.33要支援1人数0.00	0.00要支援2人数0.00	5.17要介護1人数1.92	2.17 要介護2人数 1.08	 33 25 要介護3人数 75 	0.00 0.17 要介護4人数 1.25	0.00要介護5人数0.00	1.66 1.59 平均介護度 2.27	2.73	90.8%
	平成28年度 年度 平成23年度 平成24年度	9. 33 要支援1人数 0. 00 0. 00	0.00 要支援2人数 0.00 0.00	5. 17 要介護1人数 1. 92 12. 58	2.17要介護2人数1.086.83	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42	0.00 要介護5人数 0.00 0.00	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51	2. 73 2. 58	90. 8% 86. 0%
事業所 グループホームやまざきデイサービス	平成28年度 年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度	9. 33 要支援1人数 0. 00 0. 00 0. 00	9.00 要支援2人数 0.00 0.00 0.00	5. 17 要介護1人数 1. 92 12. 58 1. 50	2. 17 要介護2人数 1. 08 6. 83 0. 67	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25 1. 50	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42 0.75	9.00 要介護5人数 0.00 0.00 0.17	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51 2.44	2. 73 2. 58 2. 26	90. 8% 86. 0% 75. 4%
	平成28年度 年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度	9.33 要支援1人数 0.00 0.00 0.00 0.00	要支援2人数 0.00 0.00 0.00 0.00	5. 17 要介護1人数 1. 92 12. 58 1. 50 2. 00	2. 17 要介護2人数 1. 08 6. 83 0. 67 1. 00	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25 1. 50 1. 00	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42 0.75 0.08	要介護5人数 0.00 0.00 0.17 0.00	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51 2.44 1.87	2. 73 2. 58 2. 26 2. 32	90. 8% 86. 0% 75. 4% 77. 3%
	平成28年度 年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度	9.33 要支援1人数 0.00 0.00 0.00 0.08 0.50	0.00 要支援2人数 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00	要介護1人数 1.92 12.58 1.50 2.00 0.17	2. 17 要介護2人数 1. 08 6. 83 0. 67 1. 00 2. 25	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25 1. 50 1. 00 0. 92	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42 0.75 0.08 0.83	要介護5人数 0.00 0.00 0.17 0.00 0.00	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51 2.44 1.87 2.65	2. 73 2. 58 2. 26 2. 32 2. 32	90. 8% 86. 0% 75. 4% 77. 3% 77. 5%
	平成28年度 年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度	9.33 要支援1人数 0.00 0.00 0.00 0.08 0.50	0.00 要支援2人数 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00	5. 17 要介護1人数 1. 92 12. 58 1. 50 2. 00 0. 17	2. 17 要介護2人数 1. 08 6. 83 0. 67 1. 00 2. 25	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25 1. 50 1. 00 0. 92	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42 0.75 0.08 0.83	要介護5人数 0.00 0.00 0.17 0.00 0.00	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51 2.44 1.87	2. 73 2. 58 2. 26 2. 32 2. 32	90. 8% 86. 0% 75. 4% 77. 3%
グループホームやまざきデイサービス	平成28年度 年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度	9.33 要支援1人数 0.00 0.00 0.00 0.08 0.50	0.00 要支援2人数 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00	要介護1人数 1.92 12.58 1.50 2.00 0.17	2. 17 要介護2人数 1. 08 6. 83 0. 67 1. 00 2. 25	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25 1. 50 1. 00 0. 92	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42 0.75 0.08 0.83	要介護5人数 0.00 0.00 0.17 0.00 0.00	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51 2.44 1.87 2.65	2. 73 2. 58 2. 26 2. 32 2. 32	90. 8% 86. 0% 75. 4% 77. 3% 77. 5%
グループホームやまざきデイサービス	平成28年度 年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度	要支援1人数 0.00 0.00 0.00 0.00 0.08 0.50 0.00	要支援2人数 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00	要介護1人数 1.92 12.58 1.50 2.00 0.17	要介護2人数 1.08 6.83 0.67 1.00 2.25 1.08	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25 1. 50 1. 00 0. 92	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42 0.75 0.08 0.83 0.00	要介護5人数 0.00 0.00 0.17 0.00 0.00	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51 2.44 1.87 2.65	2. 73 2. 58 2. 26 2. 32 2. 32	90. 8% 86. 0% 75. 4% 77. 3% 77. 5%
グループホームやまざきデイサービス	平成28年度 年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度 平成28年度	9.33 要支援1人数 0.00 0.00 0.00 0.08 0.50 0.00	0.00 要支援2人数 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 要介護プラン数	5. 17 要介護1人数 1. 92 12. 58 1. 50 2. 00 0. 17 0. 75 職員常勤換算値	2. 17 要介護2人数 1. 08 6. 83 0. 67 1. 00 2. 25 1. 08	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25 1. 50 1. 00 0. 92 1. 33	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42 0.75 0.08 0.83 0.00	要介護5人数 0.00 0.00 0.17 0.00 0.00 0.00	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51 2.44 1.87 2.65	2. 73 2. 58 2. 26 2. 32 2. 32	90. 8% 86. 0% 75. 4% 77. 3% 77. 5%
グループホームやまざきデイサービス	平成28年度 年度 平成23年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度 平成28年度 平成28年度	9.33 要支援1人数 0.00 0.00 0.08 0.50 0.00 要支援プラン数 12.75	0.00 要支援2人数 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 要介護プラン数 70.75	要介護1人数 1.92 12.58 1.50 2.00 0.17 0.75 職員常勤換算値 2.88	2. 17 要介護2人数 1. 08 6. 83 0. 67 1. 00 2. 25 1. 08	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25 1. 50 1. 00 0. 92 1. 33 平均介護度 2. 21	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42 0.75 0.08 0.83 0.00	9.00 要介護5人数 0.00 0.00 0.17 0.00 0.00 要介護新規受入数 3.83	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51 2.44 1.87 2.65	2. 73 2. 58 2. 26 2. 32 2. 32	90. 8% 86. 0% 75. 4% 77. 3% 77. 5%
グループホームやまざきデイサービス 事業所	平成28年度 年度 平成23年度 平成25年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度 平成28年度 平成28年度 平成23年度	9.33 要支援1人数 0.00 0.00 0.00 0.08 0.50 0.00 要支援プラン数 12.75 15.33	0.00 要支援2人数 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 要介護プラン数 70.75 92.08	5. 17 要介護1人数 1. 92 12. 58 1. 50 2. 00 0. 17 0. 75 職員常勤換算値 2. 88 2. 88	要介護2人数 1.08 6.83 0.67 1.00 2.25 1.08 環境一人当たりアラ数 29.04 37.36	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25 1. 50 1. 33 平均介護度 2. 21 2. 19	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42 0.75 0.08 0.83 0.00 要支援新規受入数 1.33 0.92	9.00 要介護5人数 0.00 0.17 0.00 0.00 0.00 要介護新規受入数 3.83 4.92	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51 2.44 1.87 2.65	2. 73 2. 58 2. 26 2. 32 2. 32	90. 8% 86. 0% 75. 4% 77. 3% 77. 5%
	平成28年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度 平成28年度 平成28年度 平成23年度	9.33 要支援1人数 0.00 0.00 0.08 0.50 0.00 要支援プラン数 12.75 15.33 13.67	0.00 要支援2人数 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.75 92.08 93.83	要介護1人数 1.92 12.58 1.50 2.00 0.17 0.75 職員常勤換算値 2.88 2.94	要介護2人数 1.08 6.83 0.67 1.00 2.25 1.08 Quadratic (April 1997) Quadratic	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25 1. 50 1. 00 0. 92 1. 33 平均介護度 2. 21 2. 19 2. 11	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42 0.75 0.08 0.83 0.00 要支援新規受入数 1.33 0.92 1.33	要介護5人数 0.00 0.00 0.17 0.00 0.00 0.00 要介護新規受入数 3.83 4.92 3.17	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51 2.44 1.87 2.65	2. 73 2. 58 2. 26 2. 32 2. 32	90. 8% 86. 0% 75. 4% 77. 3% 77. 5%
グループホームやまざきデイサービス 事業所	平成28年度 平成23年度 平成25年度 平成26年度 平成26年度 平成27年度 平成28年度 平成28年度 平成23年度 平成23年度	要支援1人数 0.00 0.00 0.00 0.08 0.50 0.00 要支援プラン数 12.75 15.33 13.67 19.08	0.00 要支援2人数 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 要介護プラン数 70.75 92.08 93.83 93.75	要介護1人数 1.92 12.58 1.50 2.00 0.17 0.75 職員常勤換算値 2.88 2.88 2.94 2.96	要介護2人数 1.08 6.83 0.67 1.00 2.25 1.08 職員一人当たりアラ教 29.04 37.36 36.60 38.09	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25 1. 50 1. 33 平均介護度 2. 21 2. 19 2. 11 2. 10	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42 0.75 0.08 0.83 0.00 要支援新規受入数 1.33 0.92 1.33 1.58	要介護5人数 0.00 0.00 0.17 0.00 0.00 要介護新規受入数 3.83 4.92 3.17 2.92	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51 2.44 1.87 2.65	2. 73 2. 58 2. 26 2. 32 2. 32	90. 8% 86. 0% 75. 4% 77. 3% 77. 5%
グループホームやまざきデイサービス 事業所	平成28年度 平成23年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度 平成27年度 平成28年度 平成23年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度	9.33 要支援1人数 0.00 0.00 0.08 0.50 0.00 要支援プラン数 12.75 15.33 13.67 19.08 26.33	0.00 要支援2人数 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 要介護プラン数 70.75 92.08 93.83 93.75 91.33	要介護1人数 1.92 12.58 1.50 2.00 0.17 0.75 職員常勤換算値 2.88 2.94 2.96 3.00	要介護2人数 1.08 6.83 0.67 1.00 2.25 1.08 場局一人当たりアラッ数 29.04 37.36 36.60 38.09 39.22	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25 1. 50 1. 33 平均介護度 2. 21 2. 19 2. 11 2. 10 2. 13	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42 0.75 0.08 0.83 0.00 要支援新規受入数 1.33 0.92 1.33 1.58 1.08	要介護5人数 0.00 0.00 0.17 0.00 0.00 0.00 0.00 3.83 4.92 3.17 2.92 2.67	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51 2.44 1.87 2.65	2. 73 2. 58 2. 26 2. 32 2. 32	90. 8% 86. 0% 75. 4% 77. 3% 77. 5%
グループホームやまざきデイサービス 事業所	平成28年度 平成23年度 平成25年度 平成26年度 平成26年度 平成27年度 平成28年度 平成28年度 平成23年度 平成23年度	9.33 要支援1人数 0.00 0.00 0.08 0.50 0.00 要支援プラン数 12.75 15.33 13.67 19.08 26.33	0.00 要支援2人数 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 要介護プラン数 70.75 92.08 93.83 93.75 91.33	要介護1人数 1.92 12.58 1.50 2.00 0.17 0.75 職員常勤換算値 2.88 2.94 2.96 3.00	要介護2人数 1.08 6.83 0.67 1.00 2.25 1.08 場局一人当たりアラッ数 29.04 37.36 36.60 38.09 39.22	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25 1. 50 1. 33 平均介護度 2. 21 2. 19 2. 11 2. 10 2. 13	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42 0.75 0.08 0.83 0.00 要支援新規受入数 1.33 0.92 1.33 1.58 1.08	要介護5人数 0.00 0.00 0.17 0.00 0.00 要介護新規受入数 3.83 4.92 3.17 2.92	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51 2.44 1.87 2.65	2. 73 2. 58 2. 26 2. 32 2. 32	90. 8% 86. 0% 75. 4% 77. 3% 77. 5%
グループホームやまざきデイサービス 事業所	平成28年度 平成23年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度 平成27年度 平成28年度 平成23年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度	9.33 要支援1人数 0.00 0.00 0.08 0.50 0.00 要支援プラン数 12.75 15.33 13.67 19.08 26.33	0.00 要支援2人数 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 要介護プラン数 70.75 92.08 93.83 93.75 91.33	要介護1人数 1.92 12.58 1.50 2.00 0.17 0.75 職員常勤換算値 2.88 2.94 2.96 3.00	要介護2人数 1.08 6.83 0.67 1.00 2.25 1.08 場局一人当たりアラッ数 29.04 37.36 36.60 38.09 39.22	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25 1. 50 1. 33 平均介護度 2. 21 2. 19 2. 11 2. 10 2. 13	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42 0.75 0.08 0.83 0.00 要支援新規受入数 1.33 0.92 1.33 1.58 1.08	要介護5人数 0.00 0.00 0.17 0.00 0.00 0.00 0.00 3.83 4.92 3.17 2.92 2.67	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51 2.44 1.87 2.65	2. 73 2. 58 2. 26 2. 32 2. 32	90. 8% 86. 0% 75. 4% 77. 3% 77. 5%
グループホームやまざきデイサービス 事業所 山崎園居宅介護支援事業所	平成28年度 平成23年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度 平成27年度 平成28年度 平成23年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度	要支援1人数 0.00 0.00 0.00 0.08 0.50 0.00 要支援プラン数 12.75 15.33 13.67 19.08 26.33 27.33	0.00 要支援2人数 0.00 0.00 0.00 0.00 要介護プラン数 70.75 92.08 93.83 93.75 91.33 100.25	要介護1人数 1.92 12.58 1.50 2.00 0.17 0.75 職員常勤換算値 2.88 2.94 2.96 3.00	 2.17 要介護2人数 1.08 6.83 0.67 1.00 2.25 1.08 職員一人当たりアラ本 29.04 37.36 36.60 38.09 39.22 41.69 	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25 1. 50 1. 33 平均介護度 2. 21 2. 19 2. 11 2. 10 2. 13	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42 0.75 0.08 0.83 0.00 要支援新規受入数 1.33 0.92 1.33 1.58 1.08	要介護5人数 0.00 0.00 0.17 0.00 0.00 0.00 0.00 3.83 4.92 3.17 2.92 2.67	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51 2.44 1.87 2.65	2. 73 2. 58 2. 26 2. 32 2. 32	90. 8% 86. 0% 75. 4% 77. 3% 77. 5%
グループホームやまざきデイサービス 事業所	平成28年度 平成23年度 平成23年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度 平成28年度 平成23年度 平成23年度 平成25年度 平成25年度 平成25年度	要支援1人数 0.00 0.00 0.00 0.08 0.50 0.00 要支援プラン数 12.75 15.33 13.67 19.08 26.33 27.33	0.00 要支援2人数 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 要介護プラン数 70.75 92.08 93.83 93.75 91.33 100.25	要介護1人数 1.92 12.58 1.50 2.00 0.17 0.75 職員常勤換算値 2.88 2.88 2.94 2.96 3.00 3.08	要介護2人数 1.08 6.83 0.67 1.00 2.25 1.08 職員一人当たりブラ歌 29.04 37.36 36.60 38.09 39.22 41.69	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25 1. 50 1. 33 平均介護度 2. 21 2. 19 2. 11 2. 10 2. 13	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42 0.75 0.08 0.83 0.00 要支援新規受入数 1.33 0.92 1.33 1.58 1.08	要介護5人数 0.00 0.00 0.17 0.00 0.00 0.00 0.00 3.83 4.92 3.17 2.92 2.67	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51 2.44 1.87 2.65	2. 73 2. 58 2. 26 2. 32 2. 32	90. 8% 86. 0% 75. 4% 77. 3% 77. 5%
グループホームやまざきデイサービス 事業所 山崎園居宅介護支援事業所	平成28年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度 平成28年度 平成23年度 平成23年度 平成25年度 平成27年度 平成27年度 平成27年度 平成27年度	9. 33 要支援1人数 0. 00 0. 00 0. 00 0. 08 0. 50 0. 00 要支援プラン数 12. 75 15. 33 13. 67 19. 08 26. 33 27. 33	0.00 要支援2人数 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 要介護プラン数 70.75 92.08 93.83 93.75 91.33 100.25 空床日数×床数 112.50	5. 17 要介護1人数 1. 92 12. 58 1. 50 2. 00 0. 17 0. 75 職員常勤換算値 2. 88 2. 94 2. 96 3. 00 3. 08 平均人数/日 2. 13	 2.17 要介護2人数 1.08 6.83 0.67 1.00 2.25 1.08 編員一人当たりブラン教 29.04 37.36 36.60 38.09 39.22 41.69 利用率 35.5% 	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25 1. 50 1. 33 平均介護度 2. 21 2. 19 2. 11 2. 10 2. 13	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42 0.75 0.08 0.83 0.00 要支援新規受入数 1.33 0.92 1.33 1.58 1.08	要介護5人数 0.00 0.00 0.17 0.00 0.00 0.00 0.00 3.83 4.92 3.17 2.92 2.67	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51 2.44 1.87 2.65	2. 73 2. 58 2. 26 2. 32 2. 32	90. 8% 86. 0% 75. 4% 77. 3% 77. 5%
グループホームやまざきデイサービス 事業所 山崎園居宅介護支援事業所 事業所	平成28年度 平成23年度 平成25年度 平成26年度 平成26年度 平成28年度 平成23年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成27年度 平成27年度 平成27年度 平成27年度	9. 33 要支援1人数 0. 00 0. 00 0. 08 0. 50 0. 00 要支援プラン数 12. 75 15. 33 13. 67 19. 08 26. 33 27. 33 末日定員 2. 50 3. 50	0.00 要支援2人数 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 要介護プラン数 70.75 92.08 93.83 93.75 91.33 100.25 空床日数×床数 112.50 84.25	5. 17 要介護1人数 1. 92 12. 58 1. 50 2. 00 0. 17 0. 75 職員常勤換算値 2. 88 2. 94 2. 96 3. 00 3. 08 平均人数/日 2. 13 3. 22	 2.17 要介護2人数 1.08 6.83 0.67 1.00 2.25 1.08 職員一人当たりアラネ 29.04 37.36 36.60 38.09 39.22 41.69 利用率 35.5% 53.7% 	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25 1. 50 1. 33 平均介護度 2. 21 2. 19 2. 11 2. 10 2. 13	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42 0.75 0.08 0.83 0.00 要支援新規受入数 1.33 0.92 1.33 1.58 1.08	要介護5人数 0.00 0.00 0.17 0.00 0.00 0.00 0.00 3.83 4.92 3.17 2.92 2.67	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51 2.44 1.87 2.65	2. 73 2. 58 2. 26 2. 32 2. 32	90. 8% 86. 0% 75. 4% 77. 3% 77. 5%
グループホームやまざきデイサービス 事業所 山崎園居宅介護支援事業所	平成28年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度 平成28年度 平成23年度 平成23年度 平成25年度 平成27年度 平成27年度 平成27年度 平成27年度	要支援1人数 0.00 0.00 0.00 0.08 0.50 0.00 要支援プラン数 12.75 15.33 13.67 19.08 26.33 27.33 末日定員 2.50 3.50 2.75	0.00 要支援2人数 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 要介護プラン数 70.75 92.08 93.83 93.75 91.33 100.25 空床日数×床数 112.50 84.25 94.83	5. 17 要介護1人数 1. 92 12. 58 1. 50 2. 00 0. 17 0. 75 職員常勤換算値 2. 88 2. 88 2. 94 2. 96 3. 00 3. 08 平均人数/目 2. 13 3. 22 2. 89	 2.17 要介護2人数 1.08 6.83 0.67 1.00 2.25 1.08 編員一人当たりブラン教 29.04 37.36 36.60 38.09 39.22 41.69 利用率 35.5% 	2. 33 1. 25 要介護3人数 0. 75 2. 25 1. 50 1. 33 平均介護度 2. 21 2. 19 2. 11 2. 10 2. 13	0.00 0.17 要介護4人数 1.25 14.42 0.75 0.08 0.83 0.00 要支援新規受入数 1.33 0.92 1.33 1.58 1.08	要介護5人数 0.00 0.00 0.17 0.00 0.00 0.00 0.00 3.83 4.92 3.17 2.92 2.67	1.66 1.59 平均介護度 2.27 2.51 2.44 1.87 2.65	2. 73 2. 58 2. 26 2. 32 2. 32	90. 8% 86. 0% 75. 4% 77. 3% 77. 5%

3.85

1.38

65. 33

140.58

160. 92 0. 70

64.1%

11.7%

22.9%

平成26年度 3.92

平成27年度 0.50

平成28年度 1.50

社会福祉法人三幸会 全事業所実績の見える化

平均值

平成26年度 49.58

平成27年度 49.08 平成28年度 46.92 22.00

54.83

126. 50

0.42

0.50

0.75

0.25

0.42

0.75

中张記	左连	≖ +松• □ 凇·	無士450 L ₩/	再入类4 [业	亜 △ # □ L Ψ □	電人業○「半	再入类4 1 型	邢 △	豆块人类片	TH 1 W / -	利田本
事業所	年度		要支援2人数					要介護5人数			利用率
	平成23年度		21. 92	85. 08	85. 33	86. 08	14. 33	14. 50	2. 26		51. 7%
	平成24年度		48. 67		86. 42	77. 42	40. 08	9. 08			68. 9%
松城デイサービスセンター一般型	平成25年度		38. 08		94. 92	77. 42	28. 25	2.08	1. 92		65. 7%
	平成26年度		50. 25		91.00	56. 58	55. 92	18. 67	2. 10	22. 19	74.0%
	平成27年度		72.00	169. 17	106. 58	48. 17	85. 50	36.83	2.36		81. 2%
	平成28年度	14. 17	37.00	156. 92	122.75	52. 75	58.00	6. 17	2.07	20.64	68.8%
								_			
事業所	年度		要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
	平成23年度	0.00	0.00	0.25	1.42	28.67	44. 42	42.42	4.09	5.36	44. 7%
	平成24年度	0.00	0.00	7.75	8.00	30. 58	47.00	47.17	3.84	6.64	55.3%
松城デイサービスセンター認知症対応型	平成25年度	0.00	0.00	9.67	6.42	22.83	20.83	52.08	3.89	5. 18	43.1%
仏域ノイリーし入センター認知症対応生	平成26年度	0.00	0.00	14. 33	12. 33	11.33	20.00	28.50	3. 43	4.02	33.5%
	平成27年度	0.00	0.00	0.00	9.58	12. 17	10.75	47.33	4.20	3.68	30.7%
	平成28年度	0.00	0.00	0.00	1.83	11.00	22.33	44.83	4.39	3.69	30.8%
					•						
事業所	年度	要支援プラン数	要介護プラン数	職員常勤換算值	職員一人当たりプラン数	平均介護度	要支援新規受入数	要介護新規受入数			
	平成24年度	18. 92	13.67	1.00	32. 58	1.83	2.67	2. 42			
	平成25年度		22. 58	1.00	47.83	1.64	0.67	1. 75			
松城指定居宅介護支援事業所	平成26年度		31. 42	1.00	51. 50	1. 92	0. 33	1. 83			
	平成27年度		29. 83	1.00	46. 50	1. 81	0. 75	0.83			
	平成28年度		30. 92	1.00	48. 58	1. 57	0. 75	1. 25			
	1 /3/20 1 /2	11.01	00.02	1. 00	10.00	1.01	0.10	1. 20	ı		
事業所	年度	末日定員	空床日数×床数	介護保険利用者数	療育手帳者	精神障害手帳者	身体障害手帳者	1			
T /N//	平成23年度		25. 58	0. 08	12.08	17. 83	6.00				
	平成24年度			0.00	11. 33	19. 67	6. 00				
	平成25年度			0.00	10. 58	21. 50	7. 17				
救護施設浜松市立入野園	平成26年度				9.00	23. 00	7. 75				
	平成27年度			0.00	9. 17	23. 50	8. 08	1			
	平成28年度			0.00	9. 50	22. 75	7. 42	1			
	十成20千皮	00.00	30. 20	0.00	9.00	22.10	1.42	J			
事業所	年度	士口宁昌	空中日料>中料	小雄 伊脸利田老粉	療育手帳者	特加陪宝壬岠 孝	业 体赔害壬岠老	1			
学未別	平成23年度		54. 50	0.00	7.58	35. 67	7.67				
	平成23年度平成24年度			0.00	7. 25	35. 92	9. 08				
救護施設浜松市立西山園	平成25年度			0.00	9.50	36. 83	9. 17				
	平成26年度		56. 75	0.00	10.00	36. 67	7. 67	4			
	平成27年度		47. 75	0.00	10.00	35. 00	8. 75	4			
	平成28年度	58.08	53. 58	0.00	10.00	28. 75	7. 58	j			
- 뉴 개· = r	F F	4 n 4 r	I	H. J. SHIPPER	P . I . p to	Ī					
事業所	年度		空床日数×床数		月内入所者						
	平成23年度		120.83	0. 92	0.92						
	平成24年度		67. 50	1. 17	1.00						
浜松市立軽費老人ホーム佐鳴荘	平成25年度			0.33	0.42						
	工 少00 年 虚	40 50	00 00	0 10	0.05						